

令和2年度 行政評価結果報告書



一宮市

令和2年10月

目次

1	一宮市の行政評価	1
2	ねらい	1
3	評価対象	1
4	評価方法	2
5	施策評価の結果	4
6	事業評価の結果	7
7	市民から見た評価	8
8	施策評価シート	10
参考	アンケート調査（市民の体感指標）の標本誤差について	86

1 一宮市の行政評価

複雑・多様化した市民ニーズや地域特有の課題、社会潮流の変化に対応するために、本市の目指す方向性と取組を施策として明示した「第7次一宮市総合計画」が平成30年度からスタートしました。

本市の行政評価は、この「第7次一宮市総合計画」の進捗管理を行い、計画の目標を達成することを主な目的とし、計画に掲げられた施策および施策に関連する事業の評価を行います。

これらの評価結果に基づき、必要な改善策を検討・実施し、PDCAサイクルを運用していくことで、「第7次一宮市総合計画」を効果的かつ効率的に実現していきます。

2 ねらい

(1) 効果的かつ効率的な市政の追求

限られた財源のもとで、第7次一宮市総合計画を実現するため、業務の手段や進め方を絶えず点検・改善し、効果的かつ効率的な行政経営を行います。

(2) 説明責任の向上

成果をできる限り客観的かつ論理的にわかりやすく検証することにより、市政の透明性を高めます。

(3) 職員の意識改革

職員一人一人が、自分の仕事の目的と成果を常に念頭に置き、コスト意識を持って仕事を行います。

3 評価対象

第7次一宮市総合計画の施策と、施策に関連する事業を対象とします。

(1) 施策評価

第7次一宮市総合計画に掲げられた全35施策を対象とします。

(2) 事業評価

各施策に関連する事業として、令和元年度実施計画に掲載した474事業（延べ数）を対象とします。

4 評価方法

(1) 施策評価

施策の進み具合を測るために設定した「成果指標」と、市民アンケート調査等により市民の体感を問う「市民の体感指標」の実績値を毎年度把握し、その評価結果を組み合わせ「施策の評価結果」とします。

ア 成果指標による評価

前期基本計画における個々の成果指標の進捗状況を、基準値、令和元年度の実績値および目標値の3つの数値から算定し、「A」～「D」の4段階で評価します。なお、基準値、実績値および目標値については次のとおりです。

- 基準値：平成 28 年度中に把握した数値
- 実績値：計画の進捗管理のため、毎年度把握する数値
- 目標値：前期基本計画の最終年度である令和 4 年度の目標となる数値

施策に複数の成果指標がある場合は、個々の成果指標の評価結果に基づいて、施策の成果指標の評価結果「A」～「D」にまとめます。なお、成果指標が1つの施策は、その指標の評価結果をもって、施策の成果指標の評価とします。

【成果指標による評価結果の内容】

A	目標値に向けて、良好に推移している
B	目標値に向けて、概ね良好に推移している
C	目標値に向けて、低調に推移している
D	目標値に対して、悪化している

イ 市民の体感指標による評価

前期基本計画における市民の体感指標の推移状況を、長期的推移（基準値との比較）と短期的推移（前年度実績値との比較）の関係から「a」～「d」の4段階で評価します。なお、長期的推移と短期的推移の把握においては、アンケート調査による標本誤差を考慮します。

【市民の体感指標による評価結果の内容】

a	基準値および前年度実績値と比較して、良好に推移している
b	基準値および前年度実績値と比較して、概ね良好に推移している
c	基準値および前年度実績値と比較して、低調に推移している
d	基準値および前年度実績値と比較して、悪化している

ウ 施策評価

成果指標の評価結果「A」～「D」と、市民の体感指標の評価結果「a」～「d」を並べて「Aa」（最高評価）～「Dd」（最低評価）の16段階で評価します。さらに、成果指標の評価結果と、市民の体感指標の評価結果に乖離（「Da」または「Ad」）が生じていないかを確認します。

(2) 事業評価

以下の3つの観点に基づいて評価します。

観点	内容
必要性	<ul style="list-style-type: none">事業の性質からみて、市が関与する必要があるか社会環境や市民ニーズ等から、事業を実施することが妥当か施策目的から、事業を実施することが妥当か
有効性	<ul style="list-style-type: none">事業活動の状況からみて、事業の目標を達成しているか
効率性	<ul style="list-style-type: none">コストの状況からみて、前年度と比較して、効率的に事業を進めているか

必要性の評価結果は、「○」（必要性あり）、「要検討」のいずれかとなります。有効性の評価結果は、「★★★」（目標を達成）、「★★」（目標を概ね達成）、「★」（改善が必要）の3段階となります。効率性の評価結果は、「★★★」（前年度と比較して効率が上がった）、「★★」（前年度と比較して概ね変わらなかった）、「★」（前年度と比較して効率が下がった）の3段階となります。また、前年度と内容が大きく変わった事業など、評価できない事業は「-」（評価不能）としています。

5 施策評価の結果

(1) 概要

全 35 施策のうち、成果指標の評価結果は、「A：良好」が 12 施策（34.3%）、
「B：概ね良好」が 11 施策（31.4%）、「C：低調」が 6 施策（17.1%）、「D：
悪化」が 6 施策（17.1%）という結果になりました（図1参照）。

また、市民の体感指標の評価結果は、「a：良好」が 11 施策（31.4%）、「b：
概ね良好」が 24 施策（68.6%）、「c：低調」「d：悪化」は無しという結果にな
りました（図2参照）。

施策別の評価結果の一覧は、5頁「施策評価の結果一覧表」の通りです。

また、各施策の評価結果の詳細については、各施策評価シートに記載していま
す。

図1 成果指標

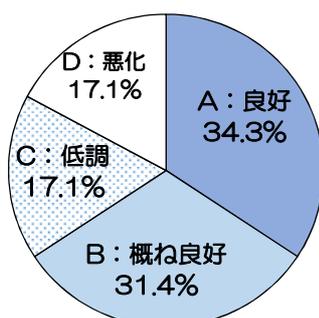
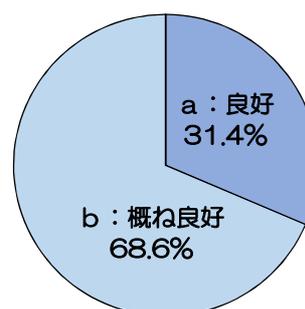


図2 市民の体感指標



※小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合があります。

(2) 改善計画等

評価結果に応じて、施策の今後の方向性・改善計画を検討しました。特に、評
価結果が「D：悪化」となった5つの施策については、成果指標の実績値の早急
な改善を目指して、関係課全体で改善計画を検討・推進していきます。

さらに、成果指標の評価結果と、市民の体感指標の評価結果に乖離（「D a」
または「A d」）が生じた施策については、その要因を分析しました。

施策の改善計画等は、各施策評価シート「9. 今後の方向性・改善計画」に記
載しています。

施策評価の結果一覧表

Plan/ Management	施策 番号	施 策 名	成果指標 A~D	市民の 体感指標 a~d	施策評価
Plan 1	1	健康寿命の長いまちづくりに取り組みます	D	b	D b
	2	安心して子育てができる環境をつくります	B	b	B b
	3	適切な医療を受けられる体制を整えます	A	b	A b
	4	高齢者が安心していきいきと暮らせるよう支援します	A	b	A b
	5	障害者福祉の充実を図ります	A	a	A a
Plan 2	6	ごみを適正に処理し資源のリサイクルを推進します	C	b	C b
	7	地球温暖化防止に取り組みます	D	a	D a
	8	環境教育を推進します	A	b	A b
	9	水と緑を活かしたまちをつくります	D	a	D a
	10	良好な生活環境を確保します	B	b	B b
	11	総合的な住宅対策に取り組みます	B	b	B b
	12	公共交通網の整備を進めます	A	a	A a
Plan 3	13	歩行者や自転車が安全に通行できる交通環境を整備します	A	b	A b
	14	災害に強い社会基盤整備を進めます	B	a	B a
	15	自主防災力の向上を図ります	C	a	C a
	16	火災や救急に対する体制の強化を進めます	B	b	B b
	17	交通事故を減らす取組を進めます	A	b	A b
Plan 4	18	防犯対策を進めます	A	b	A b
	19	既存産業や次世代産業の育成を支援します	B	b	B b
	20	意欲を持って働けるよう就労支援を進めます	C	b	C b
	21	女性の活躍できる環境をつくります	C	b	C b
	22	魅力があり持続的発展性のある農業を支援します	B	b	B b
	23	幹線道路の整備を進めます	A	b	A b

Plan/ Manag ement	施策 番号	施 策 名	成果指標 A~D	市民の 体感指標 a~d	施策評価
Plan5	24	子どもから青少年まで健全に育つ環境をつ くります	B	b	Bb
	25	学校教育施設を整備します	A	a	Aa
	26	特色ある教育活動を実施します	B	b	Bb
	27	する・みる・ささえるスポーツ活動を支援 します	C	a	Ca
	28	歴史・文化に親しめる環境を整えます	D	b	Db
Manag ement 1	1	子育て世代に選ばれるまちをつくります	B	b	Bb
	2	訪れてみたいまち、交流が盛んなまちをつ くります	D	b	Db
Manag ement 2	3	健全な財政運営に努めます	B	a	Ba
	4	公共施設の適切な維持管理に努めます	C	a	Ca
	5	情報通信技術（ICT）を積極的に利活用し ます	A	b	Ab
	6	適切な情報発信を行います	A	a	Aa
	7	市民との協働を進めます	D	b	Db

6 事業評価の結果

(1) 概要

必要性については、評価対象となる474事業（延べ数）のうち、必要性あり（「○」）が463事業（97.7%）、要検討が11事業（2.3%）という結果になりました。

有効性については、同474事業のうち、事業の目標を達成した事業（「★★★」）が200事業（42.2%）、目標を概ね達成した事業（「★★」）が239事業（50.4%）、目標達成に向けて改善が必要な事業（「★」）が35事業（7.4%）という結果になりました。

効率性については、同474事業のうち、前年度と比較して効率が上がった事業（「★★★★」）が92事業（19.4%）、前年度と比較して概ね変わらなかった事業（「★★」）が212事業（44.7%）、前年度と比較して効率が下がった事業（「★」）が121事業（25.5%）、評価不能の事業（「-」）が49事業（10.3%）という結果になりました。

事業評価の結果は、各施策評価シートの「7. 施策実現に向けて実施した事業（実施計画に掲載した事業）」とその評価結果」に記載しています。

※小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合があります。

(2) 改善計画

目標達成に向けて改善が必要な事業（「★」）について、原則として、次年度の評価結果を改善するための改善計画を検討・推進していきます。

また、事業の目標を達成した事業（「★★★★」）、目標を一部達成できなかった事業（「★★」）であっても、施策の評価結果が悪い場合には、成果指標を改善するために必要に応じて改善計画を検討・推進していきます。

事業の改善計画のうち、成果指標の評価結果の改善に効果があるものは、各施策評価シート「9. 今後の方向性・改善計画」に記載しています。

7 市民から見た評価

第7次一宮市総合計画の進み具合について、市民同士の話し合いを通じて確認するワークショップを開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面によるアンケートの形式に変更しました。

成果指標の評価結果が「C」「D」の施策について、基準年度（平成28年度）と比較して、「○：良くなっている」、「△：変わらない」、「×：悪くなっている」の3段階で評価していただくとともに、評価の理由や事業の提案など、意見を記入いただきました。

評価結果及び意見の一部は、各施策評価シート「10. 市民から見た評価（アンケート回答者の一部へ意見聴取）」に記載しています。

(前頁と見開き)

令和元年度実施計画に掲載した事業について、「事業展開の方向性」「事業名」「担当課」を記載しています。

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
ごみの排出マナー・減量意識の向上	ごみ減量啓発事業	清掃対策課	○	★	★
	生ごみ処理機等購入補助事業	清掃対策課	○	★★	★
	ごみ減量モニター事業	清掃対策課	○	★★★★	★★★★
ごみの適正かつ効率的な処理	可燃ごみ収集事業	清掃対策課	○	★★★★	★
	不燃ごみ収集事業	清掃対策課	○	★★★★	★★
	粗大ごみ収集事業	清掃対策課	○	★★★★	★★
	焼却施設運転管理事業	施設管理課	○	★★★★	★★
	リサイクルセンター運転管理事業	施設管理課	○	★★★★	★★
	最終処分場運転管理事業	施設管理課	○	★★★★	★★
	最終処分場延命化事業	施設管理課	○	★★★★	★★
資源のリサイクルの推進	資源回収事業	清掃対策課	○	★★★★	★★
	空き缶・金属類リサイクル事業	清掃対策課	○	★★★★	★★
	プラスチック製容器包装リサイクル事業	清掃対策課	○	★★	★
	ペットボトルリサイクル事業	清掃対策課	○	★★	★★
	小型家電リサイクル事業	清掃対策課	○	★★★★	-

実施計画に掲載した事業について、事業評価の結果を記載しています。必要性は「○」または「要検討」の2段階評価、有効性及び効率性は「★」～「★★★★」の3段階評価です。評価できない事業は「-」としています。

成果指標の評価結果が「C」「D」の施策について アンケートに回答した市民の評価結果(○、△、×の割合)と、評価の理由や事業の提案などの意見を記載しています。

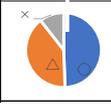
8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

必要性の評価結果が「要検討」の事業について、事業の見直しの内容を記載しています。

施策を推進していくための今後の方向性や改善計画について、施策に関連する主な事業の改善計画を含めて記載しています。

9. 今後の方向性・改善計画		
<p>新型コロナウイルスの影響で外出の機会が減り、家庭から排出されるごみの増加が見込まれるが、冊子「ごみと資源の分け方・出し方辞典」や、ウェブアプリ「一宮市ゴミチェッカー」、フェイスブック「ピンちゃん・カンちゃん」、広報等の媒体を活用して、ごみと資源の分別の啓発活動をさらにすすめ、ごみの減量、リサイクル率の向上につなげていきたい。また、目標値に向けて、最終処分場の計画的な埋立管理に努め、焼却残渣の民間最終処分場等への搬出量を検討していきたい。</p>		

施策を推進していくための今後の方向性や改善計画について、施策に関連する主な事業の改善計画を含めて記載しています。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)		
	評価結果	評価の理由や提案等
	○ 良くなっている	49.4%
	△ 変わらない	40.3%
	× 悪くなっている	10.4%
	<ul style="list-style-type: none"> ・資源がどのように何にリサイクルされているのかがよくわからない。もっとアピールしてほしい。 ・ゴミの出し方がまだ徹底されていないと思う。 ・手軽にリサイクルボックスに入れられる環境があると嬉しい。 	

主担当部・課	関係課
環境部 清掃対策課	施設管理課

(2) 各施策の施策評価シート

全 35 施策の施策評価シートを次頁以降に掲載しています。

第7次総合計画 令和2年度 施策評価シート

Plan 1

健やかにいきる

施策1

健康寿命の長いまちづくりに取り組みます

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① がん検診受診率 (%)	↗	28.6	27.3	27.1	26.5			45.0	D
② 国民健康保険の特定保健指導の該当率 (%)	↘	11.2	11.1	11.3	11.3			10.9	D

グラフ	①		評価結果
	②		

D
悪化

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
健康に暮らしていると感じている人の割合	74.6	75.7	73.9	77.5			b 概ね良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・がん検診を受けない理由として「受ける時間がないから」、「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」「必要などときにはいつでも医療機関に受診できるから」が上位となっている。
- ・死因別の死亡数第1位の悪性新生物は、令和元年の全死亡者に占める割合が27.3%（前年度に比べて0.1ポイント低下）で、日本人の3.7人に1人が「がんで死亡している」計算となる。
- ・特定健康診査の受診者のうち、特定保健指導に該当する人の割合は前年度に比べて横ばいとなっている。

4. 指標の分析

成果指標	①	がん検診の必要性が市民に浸透せず、前年度実績値から0.6ポイント低下している。また、検診を受けるのに見合うだけのメリットを感じていないため、依然として基準値より低い水準にあり、目標値から乖離している。
	②	特定健康診査を毎年受診する人については、翌年度以降の特定保健指導該当率は下降傾向にある。しかしながら、それ以外の人々の特定保健指導該当率が高いため、前年度実績値から変わらず横ばいであり、基準値より高い（悪化した）水準にある。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D					
			Db 前回・今回		
	d	←	体感指標	→	a
成果指標と体感指標の乖離 なし					

5. 施策評価

Db

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
健康的な生活習慣づくりの推進	健康づくりサポーター事業	健康づくり課	○	★	★★
	健康づくり食生活改善推進事業	健康づくり課	○	★★	★★
	健康増進情報提供事業	健康づくり課	○	★★	★
	健康相談事業	健康づくり課	○	★★	★★
	すこやか健康づくり公園整備事業	公園緑地課	要検討	★★★★	★
成人保健の充実	国民健康保険特定健康診査・特定保健指導事業	保険年金課	○	★	★★
	後期高齢者医療健康診査受託事業	保険年金課	○	★★	★★
	人間ドック事業	保険年金課	○	★★	★★
	がん検診事業	健康づくり課	○	★★	★★
	女性の健康診査事業	健康づくり課	要検討	★	★★
	歯科健康診査事業	健康づくり課	○	★★	★★
感染症対策の推進	予防接種事業	健康づくり課	○	★★★★	★★
	結核予防事業	健康づくり課	○	★★	★★
スポーツによる健康の増進	エコハウス138健康増進事業	施設管理課	○	★★	★★
	ウォーキング講習会開催事業	スポーツ課	○	★★	★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容
すこやか健康づくり公園整備事業(公園緑地課)	令和元年度末で事業完了。
女性の健康診査事業(健康づくり課)	令和元年度末で健康診査事業を廃止し、令和2年度より骨粗しょう症検査のみ実施。

9. 今後の方向性・改善計画

生活習慣病の予防と早期発見・治療に「特定健診・特定保健指導」や「がん検診」などの定期的な受診は重要である。しかしコロナ禍により、各種事業が中止となっており、市民への啓発機会が激減している。その中でも健診(検診)の重要性を健康相談や健康づくりサポーター事業、継続している各課の事業を活用して周知することで、粘り強く受診率の向上を図っていく。そしてエコハウス138など施設を利用し、普段の生活で健康への心がけをし、今まで以上に健康への意識を高めるものとする。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

	評価結果		評価の理由や提案等
	○ 良くなっている	45.5%	・ いろいろな検診があることをもっとPRしてほしい。 ・ 中核市に移行し、市が保健所を引き継ぐので、さらに市民の健康の向上に努めてもらいたい。
△ 変わらない	42.9%		
× 悪くなっている	11.7%	・ がん検診の受診率が低すぎるので上げるよう努力を。	

主担当部・課

市民健康部 健康づくり課

関係課

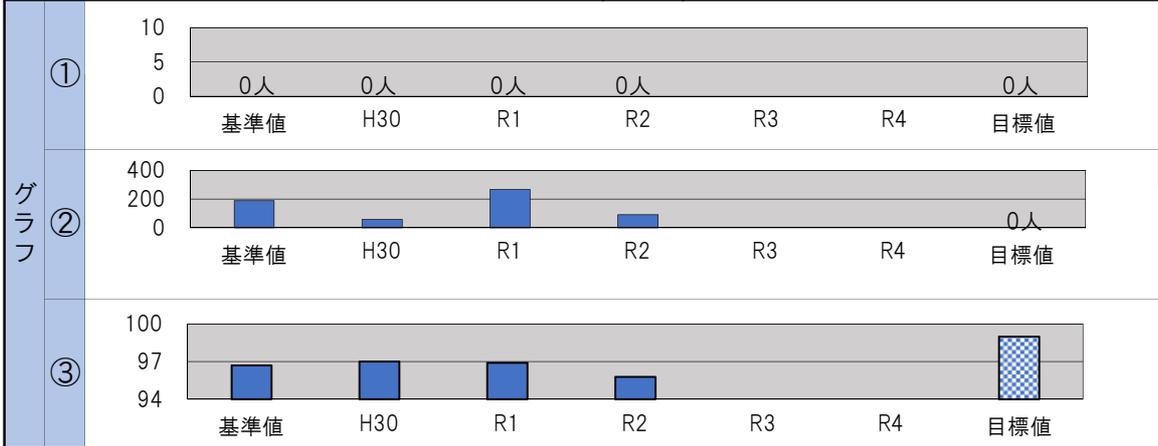
保険年金課、施設管理課、公園緑地課、スポーツ課

Plan 1 健やかにいきる

施策2 安心して子育てができる環境をつくります

1. 成果指標による評価

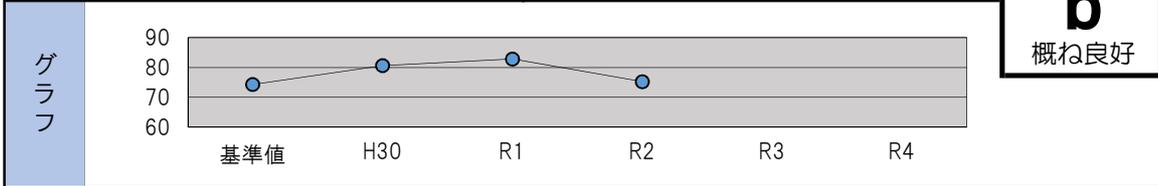
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 待機児童数（保育園）（人）	→	0	0	0	0			0	A
② 待機児童数（放課後児童クラブ）（人）	↘	189	58	268	90			0	B
③ 乳幼児健康診査の受診率（%）	↗	96.7	97.0	96.9	95.8			99.0	D



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
安心して子育てができていると思う人の割合	74.4	80.7	82.9	75.3			b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・「子育て支援」や「働き方改革」が国においてもメインテーマになっている。
- ・少子化の進行や核家族化など社会情勢の変化や、働く女性の増加、職業・就労形態の多様化などにより、仕事と子育てを両立できる環境整備の必要性が高まっている。
- ・地域のつながりの希薄化から子育てに孤立感や不安感、負担感を抱く人が増えている。
- ・身近で気軽に相談ができ、親同士の交流や子育てに関する情報を共有できる環境の整備が求められている。

5. 施策評価
Bb

4. 指標の分析

成果指標	①	保育園の施設整備や小規模保育事業所の開設および認定こども園の開所により、目標値0人を維持している。
	②	整備工事等により定員が増加したため、前年度実績値から178人減少（改善）しており、目標値に向けて概ね良好に推移している。
	③	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で受診控えがあったため、前年度実績値から1.1ポイント低下しており、基準値を下回り、目標値から乖離している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス	
A ↑ 成果指標 ↓	Bb 今回
	Cb 前回
D	
d ← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離 なし	

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
親と子どもの健康づくり	妊産婦健康診査事業	健康づくり課	○	★★	★★
	乳幼児健康診査事業	健康づくり課	○	★★	★★
	産後ケア事業	健康づくり課	○	★	-
	不妊治療費補助事業	健康づくり課	○	★★	★★
	こんにちは赤ちゃん訪問・新生児産婦訪問事業	健康づくり課	○	★★	★★
	母子健康包括支援センター事業	健康づくり課	○	★★	★★
	予防接種事業	健康づくり課	○	★★★★	★★
安心して楽しい子育ての推進	子ども医療費助成事業	保険年金課	○	★★★★	★★
	子育て支援サイト・アプリ運用事業	健康づくり課	○	★★	-
	子育て支援センター事業	子育て支援課	○	★★	★★
	子育て支援サイト・アプリ運用事業	子育て支援課	○	★★★★	★★
	子ども一時預かり事業	子育て支援課	○	★★	★★★★
	児童手当支給事業	子育て支援課	○	★★★★	★★
	児童遊園・ちびっ子広場管理事業	子育て支援課	○	★★	★★
	児童館管理運営事業	子育て支援課	○	★★★★	★★
	児童館の整備・充実事業	子育て支援課	○	★★★★	★★
	保育料減免事業	保育課	○	★★★★	★★★★
	特別保育事業(一時保育)	保育課	○	★★★★	★★
	幼稚園就園奨励費事業	保育課	要検討	★★	★★★★
	公園・緑地整備事業	公園緑地課	○	★★	★★★★
	木曾川河川敷公園整備事業	公園緑地課	○	★★	★
公園施設長寿命化対策事業	公園緑地課	○	★★	★★	
子育て支援ネットワーク事業	生涯学習課	○	★★	★	
仕事と子育ての両立支援	放課後児童クラブ運営事業	子育て支援課	○	★★★★	★★
	ファミリー・サポート・センター事業	子育て支援課	○	★★★★	★★★★
	保育園の施設整備事業	保育課	○	★★	★★★★
	私立保育園の運営・整備助成事業	保育課	○	★★★★	★★★★
	認定こども園の運営・整備助成事業	保育課	○	★★★★	★★★★
	保育事業	保育課	○	★★	★★
	特別保育事業(延長保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(乳児保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(休日保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(病児・病後児保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★★	★★
	小規模保育改修費等支援補助事業	保育課	○	★★★★	★★★★
	小規模保育事業運営補助事業	保育課	○	★★	★
放課後子ども教室事業	青少年育成課	○	★★	★★	
子ども・家庭の状況に応じた支援の充実	母子・父子家庭等医療費助成事業	保険年金課	○	★★★★	★★
	こんにちは赤ちゃん訪問・新生児産婦訪問事業	健康づくり課	○	★★	★★
	児童扶養手当支給事業	子育て支援課	○	★★★★	★★
	一宮市遺児手当支給事業	子育て支援課	○	★★★★	★★
	一宮市遺児一時金支給事業	子育て支援課	○	★★★★	★★
	児童虐待防止推進事業	こども家庭相談室	○	★★★★	★★
	子ども悩みごと相談事業	こども家庭相談室	○	★★★★	★★★★
	母子生活支援施設入所相談事業	こども家庭相談室	○	★★	★★★★
	高等職業訓練促進給付事業	こども家庭相談室	○	★	★
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★★	★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容
幼稚園就園奨励費事業 (保育課)	幼児教育・保育無償化に伴い、令和元年9月末で事業を廃止。

9. 今後の方向性・改善計画

引き続き、仕事と子育てを両立できる環境整備を進めるとともに、子育てに対する孤立感や不安感、負担感を抱く人が1人でも少なくなるよう、気軽に相談できる体制、親同士の交流や子育てに関する情報を共有できる環境の整備を進めていく。改善計画としては、待機児童の解消に向けて、引き続き施設整備を計画的に進めていく。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

主担当部・課

こども部 子育て支援課

関係課

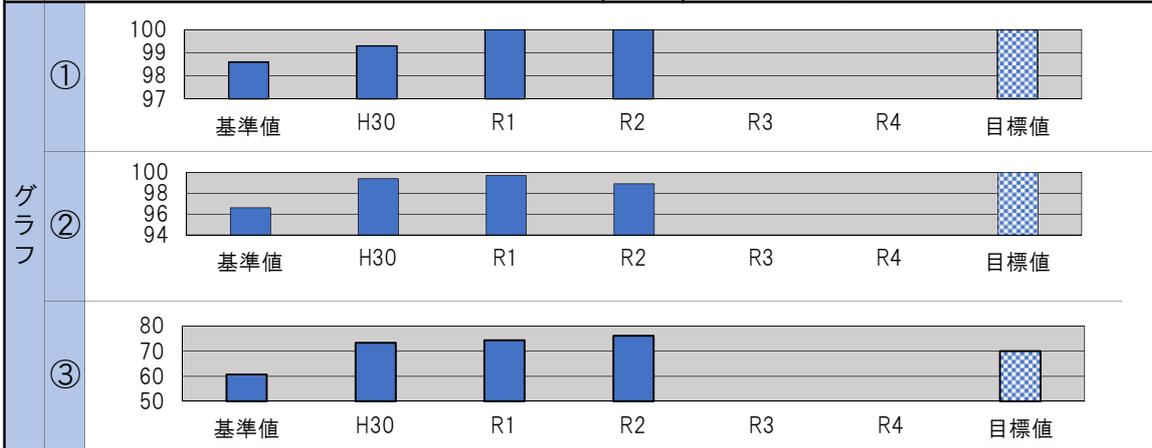
保険年金課、健康づくり課、こども家庭相談室、保育課、
青少年育成課、公園緑地課、生涯学習課

Plan 1 健やかにいきる

施策3 適切な医療を受けられる体制を整えます

1. 成果指標による評価

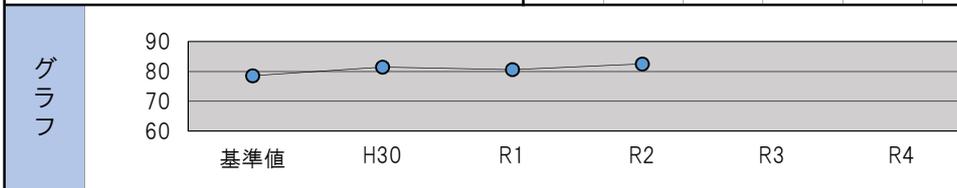
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 市立病院の医師の充足率 (%)	↗	98.6	99.3	100	100			100	A
② 市立病院の看護職員の充足率 (%)	↗	96.6	99.4	99.7	98.9			100	A
③ 地域医療機関から市民病院への紹介率 (%)	↗	60.7	73.3	74.4	76.2			70.0	A



評価結果
A
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
自分に合った医療を受けていると思う人の割合	78.6	81.5	80.7	82.6			b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・医療保険財政の運営は厳しく、より一層の効率的な運営が求められる中、病院経営は新型コロナウイルス感染症拡大により大きな影響を受けている。
- ・超高齢社会の進展により今後の受診者数の増加が見込まれ、安定的な医療制度の継続と多様な医療ニーズに合わせた良質な医療の提供が求められている。
- ・2024年4月より、働き方改革による医師の時間外労働の上限規制が設けられる。

5. 施策評価
Ab

4. 指標の分析

成果指標	①	医局人事により医師が増員されたため、引き続き目標値を達成している。
	②	離職者が例年より多く、前年度実績値から0.8ポイント低下したが、継続して看護職員の確保に努めており、目標値に向けて良好に推移している。
	③	職員で実施していた開業医への訪問活動を委託業者に委託したことや、患者からの電話予約が浸透してきたことにより、前年度実績値から1.8ポイント上昇しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標		前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

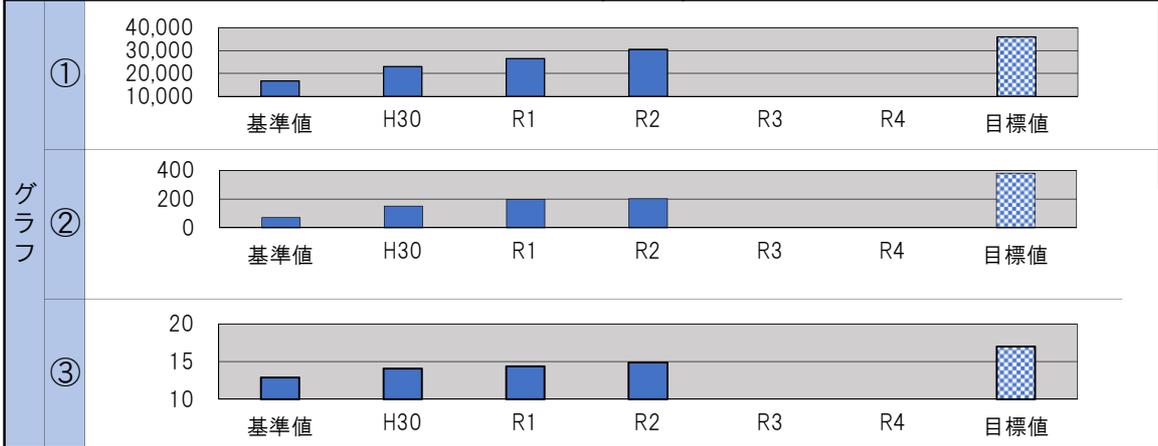
6. 進捗状況マトリクス	
	Ab 前回・今回
A ↑ 成果指標 ↓	
D	
	d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離 なし	

Plan 1 健やかにいきる

施策4 高齢者が安心していきいきと暮らせるよう支援します

1. 成果指標による評価

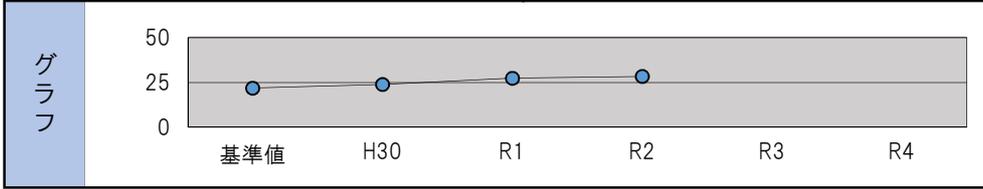
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 認知症サポーター養成講座の累積受講者数 (人)	↗	16,585	23,011	26,484	30,450			36,000	A
② 地域の高齢者が出かけたいような通いの場の箇所数 (か所)	↗	70	151	199	203			380	B
③ 65歳以上で介護サービスを利用している人の割合 (%)	↘	12.9	14.1	14.4	14.9			17.0	A



評価結果
A
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
高齢者への福祉サービスが整っていると思う人の割合	21.9	23.9	27.5	28.4			b 概ね良好



b
概ね良好

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・令和7年には65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症になる見込みのため、新オレンジプランが平成29年度に改定された。
- ・平成29年度から全国で介護予防・日常生活支援総合事業が実施されるなど、介護予防の重要性が高まっている。
- ・高齢者施策において地域包括ケアシステムを構築するように介護保険制度が改正された。

5. 施策評価
Ab

4. 指標の分析

成果指標	① 企業を対象に積極的に講座の開催を働きかけたため、前年度実績値から3,966人増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
成果指標	② 通いの場の事業周知を推進したため、前年度実績値から4か所増加しており、目標値に向けて概ね良好に推移している。
成果指標	③ 介護予防事業の充実により、前年度実績値から0.5ポイントの上昇(悪化)に留めており、目標値以下の維持に向けて良好に推移している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

		Ab 前回・今回	
A			
↑ 成果指標 ↓			
D			
	d ←	体感指標	→ a

成果指標と体感指標の乖離
なし

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
住み慣れた地域で安心して暮らすための仕組みづくり	在宅医療・介護連携推進事業	高年福祉課	○	★★	★
	認知症初期集中支援推進事業	高年福祉課	○	★	★
	認知症地域支援推進員設置事業	高年福祉課	○	★★	★★
	認知症サポーター養成講座事業	高年福祉課	○	★★★★	★★★★
	家族介護用品給付事業	高年福祉課	○	★★	★★
	地域包括支援センター事業	高年福祉課	○	★	★
	成年後見制度利用支援事業	高年福祉課	○	★★	-
	緊急連絡通報システム設置事業	高年福祉課	○	★★	★★
	配食サービス事業	高年福祉課	○	★★	★★
	ねたきり高齢者等見舞金支給事業	高年福祉課	○	★★	★★
	養護老人ホーム・生活支援ハウス事業	高年福祉課	○	★★★★	★★
高齢期をいきいきと過ごすための介護予防と生きがいづくり	あんしん介護予防事業	高年福祉課	○	★★	★
	生活支援体制整備事業	高年福祉課	○	★★	★★
	就労支援・就労の場の確保事業	高年福祉課	○	★★	★★
	いきいきセンター事業	高年福祉課	○	★★	★
	老人クラブ補助事業	高年福祉課	○	★★	★★
	シルバー入浴助成事業	高年福祉課	○	★★	★★
	敬老事業	高年福祉課	○	★★	★★
介護ニーズに対応するための介護保険事業の充実と適正化	適切な認定調査実施体制の確保事業	介護保険課	○	★	★★
	介護基盤整備事業	介護保険課	○	★★	★
	介護サービス事業者との連携事業	介護保険課	○	★★	-
	介護給付費適正化事業	介護保険課	○	★★	★★
	低所得者に対する市独自減免事業	介護保険課	○	★★★★	★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画
現状では目標値に向けて良好に推移しているため、現行事業を継続する。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

主担当部・課
福祉部 高年福祉課

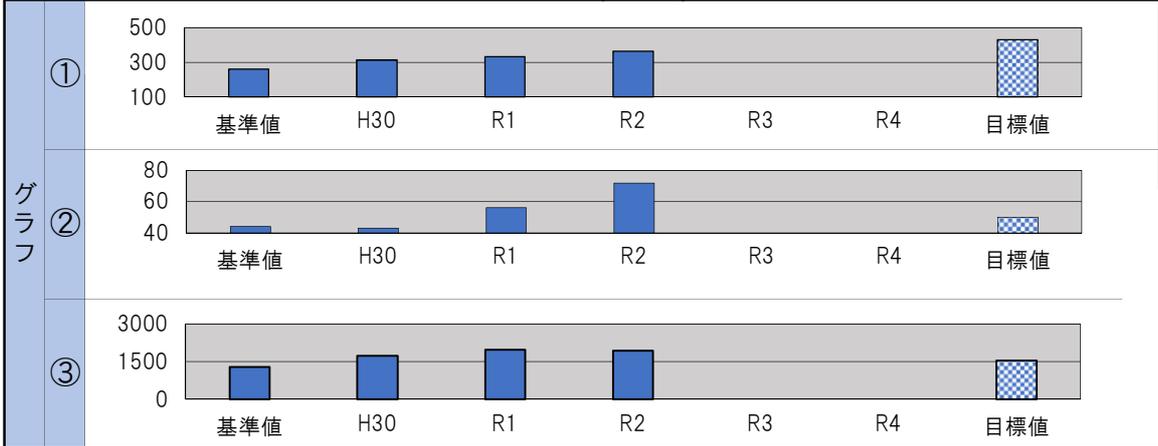
関係課
介護保険課

Plan 1 健やかにいきる

施策5 障害者福祉の充実を図ります

1. 成果指標による評価

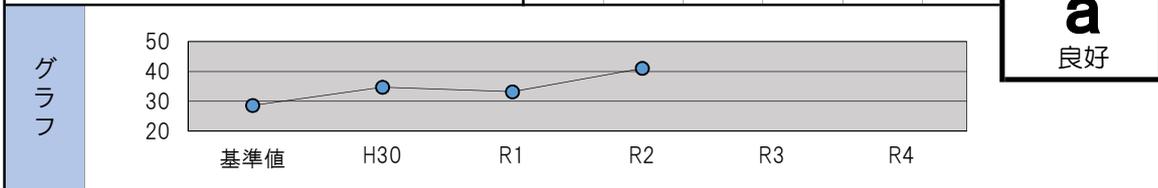
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① グループホームで生活している障害者の人数(人)	↗	262	313	334	364			430	A
② 民間企業等へ就職した障害者の人数(人)	↗	44	43	56	72			50	A
③ 療育支援を受けている障害児の人数(人)	↗	1,296	1,741	1,979	1,930			1,550	A



評価結果
A
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
障害者への福祉サービスが整っていると思う人の割合	28.7	34.8	33.2	41.1			a 良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・施設入所者および長期入院者等の地域移行が推進されており、その受け皿としてグループホームは必要な社会資源となっている。
- ・事業主に対して、法定雇用率が平成30年度から引き上げられており、障害者雇用が推進されている。
- ・障害児の多様なニーズに的確に応えるため、サービスの必要見込み量等を定める障害児福祉計画の策定が義務化された。

4. 指標の分析

成果指標	①	建設補助制度を活用するなど、グループホームが増えているため、前年度実績値から30人増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
	②	就労移行支援の利用や雇用環境の改善などのさまざまな要因により、前年度実績値から16人増加しており、引き続き目標値を達成している。
	③	毎年3月分の利用者数を集計しているため、新型コロナウイルス感染症による影響も含まれ、前年度実績値から49人(2.5%)減少しているが、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標		障害福祉に関する情報提供や啓発の推進などにより、前年度実績値との比較、基準値との比較において、それぞれ7.9ポイント、12.4ポイント上昇し、良好に推移している。

6. 進捗状況マトリクス

		Ab 前回	Aa 今回
A ↑ 成果指標 ↓			
	D		
		d ← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離 なし			

5. 施策評価
Aa

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
差別の解消及び権利擁護の推進	障害者虐待防止センター事業	福祉課	○	★★	★
	啓発事業	福祉課	○	★★	★
	成年後見制度利用支援事業	福祉課	○	★	★
地域生活支援の充実	障害者医療費助成事業	保険年金課	○	★★★★	★★
	計画相談支援事業	福祉課	○	★★	★
	共同生活援助(グループホーム)事業	福祉課	○	★★	★
	施設入所支援事業	福祉課	○	★★★★	★★
	共同生活援助支援事業	福祉課	○	★★	★
	いずみ福祉園等指定管理事業	福祉課	○	★★	★★
	日常生活用具給付事業	福祉課	○	★★	★★
	補装具費給付事業	福祉課	○	★★	★★
	移動入浴委託事業	福祉課	○	★	★★
	配食サービス事業	福祉課	○	★★	★★
	重度訪問介護事業	福祉課	○	★★	★
	居宅介護事業	福祉課	○	★★★★	★
	同行援護事業	福祉課	○	★★	★★
	行動援護事業	福祉課	○	★★★★	★★
	移動支援事業	福祉課	○	★★	★★
	福祉タクシー料金助成事業	福祉課	○	★★	★
	短期入所事業	福祉課	○	★★	★★
	日中一時支援事業	福祉課	○	★★	★★
	相談支援事業	福祉課	○	★★	★★
	社会福祉施設建設補助事業	福祉課	○	★★★★	-
	生活介護事業	福祉課	○	★★★★	★★
	自立訓練事業(生活訓練)	福祉課	○	★★★★	★★
	療養介護事業	福祉課	○	★★	★★
	地域活動支援センター事業	福祉課	○	★★	★
	障害者手当給付事業	福祉課	○	★★★★	★★
	障害者自立支援医療(更生医療)給付事業	福祉課	○	★★★★	★★
	高額障害福祉サービス費等給付事業	福祉課	○	★★	★
障害者通所交通費給付事業	福祉課	○	★★★★	★★	
障害者グループホーム建設補助事業	福祉課	○	★	★★	
雇用・就労の推進	就労移行支援事業	福祉課	○	★	★
	就労継続支援事業	福祉課	○	★★★★	★★
	就労定着支援事業	福祉課	○	★★	★
療育・保育環境の充実	障害児相談支援事業	福祉課	○	★★	★
	心身障害児母子通園事業	福祉課	○	★	★
	児童発達支援事業	福祉課	○	★★	★
	放課後等デイサービス事業	福祉課	○	★★	★★
	保育所等訪問支援事業	福祉課	○	★★★★	★★
	療育サポート事業	福祉課	○	★★	★
	就学前児童発達支援事業等負担金給付事業	福祉課	○	★★	★★
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★★	★★
	児童発達支援センター事業	いずみ学園	○	★★	★★
心身障害児母子通園事業	いずみ学園	○	★	★	

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

施策の実現に向けて、引き続き各事業を推進する。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

主担当部・課

福祉部 福祉課

関係課

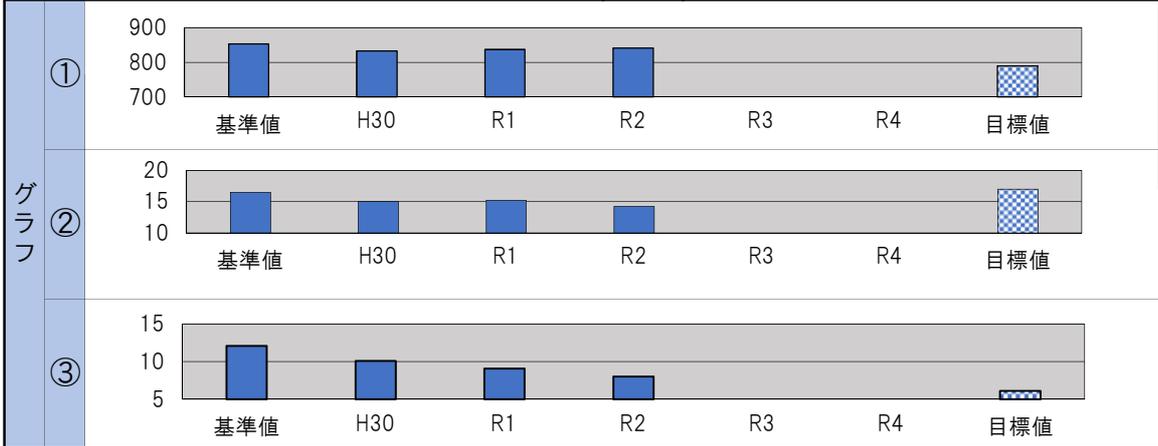
保険年金課、保育課、いずみ学園

Plan 2 快適にくらす

施策6 ごみを適正に処理し資源のリサイクルを推進します

1. 成果指標による評価

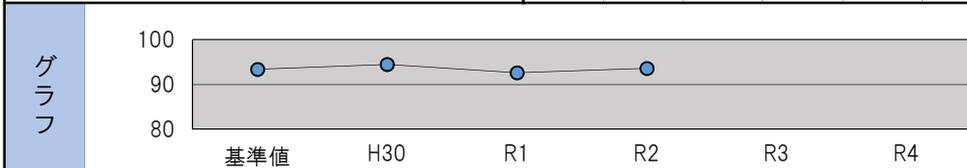
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 市民一人あたり一日分のごみの排出量 (g)	↘	853	833	837	842			790	C
② ごみのリサイクル率 (%)	↗	16.5	15.0	15.2	14.2			17.0	D
③ 最終処分場の利用可能残余年数 (年)	↗	12.11	10.11	9.11	8.04			6.11	C



評価結果
C
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
リサイクルや分別など、ごみを適正に排出していると思う人の割合	93.4	94.5	92.6	93.6			b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・環境破壊による地球温暖化や資源枯渇、資材高騰、国際情勢の影響からの資源物循環体制の悪化が話題となり、資源に対する関心は高くなっている。
- ・国では、資源の効率的な利用やリサイクルを進めることで環境への負荷が少ない「循環型社会」を形成することを目標としている。
- ・家庭では、ごみと資源の分別に対する意識が定着し、リサイクルの重要性が認知されており、また、企業による包装・梱包容器の減量化や民間によるリサイクル活動が盛んになっている。
- ・新型コロナウイルスによる生活スタイルの変化から、ごみの種類、排出方法に影響がある。

5. 施策評価
Cb

4. 指標の分析

成果指標	①	排出されるごみと資源の総量のうちごみの量が増加したため、前年度実績値から5g増加(悪化)している。消費税の増税に伴う買い替え、新型コロナウイルスによる生活スタイルの変化、経済情勢により左右される傾向もあるが、目標値から乖離している。
	②	紙媒体から電子媒体への生活スタイルの変化、また資源化する際の選別基準が厳しくなったことによる影響などから古紙、プラ容器の資源化量が減少した。そのため、前年度実績値から1ポイント低下し、目標値から乖離している。
	③	効果的なごみ処理と資源化を進めるとともに、焼却残渣を民間最終処分場等へ搬出することにより残余年数を確保しているが、近年最終処分場への埋立量が増加していることから、基準値から4年7月の減少となっている。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス			
A ↑ 成果指標 ↓ D			
		Bb 前回	
		Cb 今回	
	d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離なし			

第7次総合計画 令和2年度 施策評価シート

Plan 2

快適にくらす

施策7

地球温暖化防止に取り組みます

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）（t）	↓	2,294,148	2,357,101	2,311,559	2,364,592			2,065,666	D

グラフ		評価結果 D 悪化

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
地球温暖化防止に配慮した生活をしていると思う人の割合	59.5	61.6	61.8	64.5			a 良好

グラフ		評価結果 a 良好

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・ 京都議定書に代わる令和2年度以降の新たな国際枠組みであるパリ協定の採択・発効や、わが国における令和12年度までの温室効果ガス排出量削減目標が設定された。
 ・ 国内では、平成27年度の温室効果ガス排出量は約12億2700万トンで、2005年度（京都議定書発効年）と比較すると6.4%減少している。部門別では、産業部門が10.0%、運輸部門は11.0%、家庭部門では0.2%減少している。

4. 指標の分析

成果指標	① 産業部門及び民生家庭部門が増加したため、前年度実績値から53,033 t 増加（悪化）し、依然として基準値より高い（悪化した）水準にあり、目標値から乖離している。
市民の体感指標	各種イベントの開催や啓発等により、地球温暖化防止に配慮した生活をしていると思う人の割合が、前年度実績値との比較、基準値との比較において、それぞれ2.7ポイント、5ポイント上昇し、良好に推移している。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D					
			Db 前回	Da 今回	
	d	←	体感指標	→	a
成果指標と体感指標の乖離 あり					

5. 施策評価

Da

Plan 2

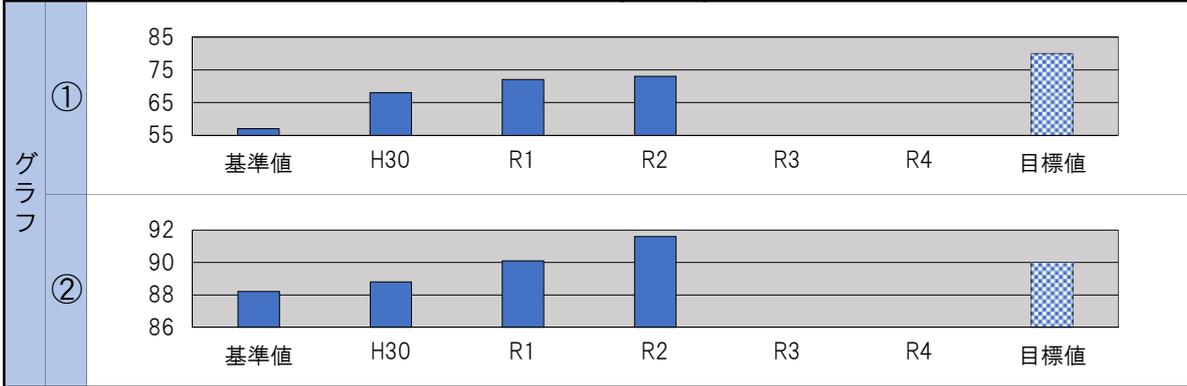
快適にくらす

施策8

環境教育を推進します

1. 成果指標による評価

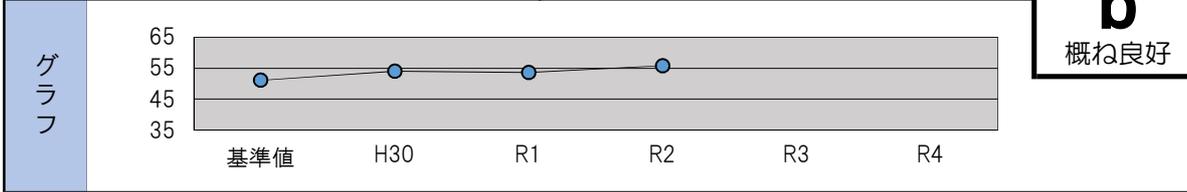
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 環境に関する講座などの開催回数 (回)	↗	57	68	72	73			80	A
② エコスクール運動参加者の環境意識向上度 (%)	↗	88.2	88.8	90.1	91.6			90.0	A



評価結果
A
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
環境に対して責任や役割を意識している人の割合	51.1	54.0	53.6	55.8			b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・ 世代ごとに特色を持たせた環境学習等の機会の拡充および連携・協働の推進が求められている。
- ・ 発達段階に応じた教育や学習機会を提供し、低炭素型の思考を醸成する必要がある。
- ・ 推進員等の資質向上と活動の場を創出し、指導者や専門的な技術、知識を持つ人材を育成する必要がある。

4. 指標の分析

成果指標	① 幼児環境教育 (+1回) 及びエコハウス138講座 (+3回) で増加し、緑のカーテン講座 (-3回) で減少した。結果、前年度実績値から1回増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
	② 以前より「地球にやさしい行動」をするようになった児童生徒が増えたため、前年度実績値から1.5ポイント増加しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

		Ab 前回・今回	
A ↑ 成果指標			
D ↓ 成果指標			
		d ←	体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離 なし			

5. 施策評価
Ab

Plan 2

快適にくらす

施策9

水と緑を活かしたまちをつくります

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 都市公園面積 (ha)	↗	228.40	229.49	229.84	230.94			238.04	C
② 水辺空間を活用したイベントの参加者数および施設の利用者数 (人)	↗	1,111,700	976,000	984,800	876,800			1,167,200	D

グラフ	①		評価結果 D 悪化
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
水と緑に親しめる場やイベントがあると思う人の割合	30.3	34.7	36.2	37.0			a 良好

グラフ		評価結果 a 良好

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・愛知県が策定した広域緑地計画において、公園整備の量だけではなく緑の質を高めていくことが記載されている。
 ・国営公園である138タワーパークの夜間開園期間の減、長期間にわたる天候不順や夏の酷暑により、公園利用に多大な影響を与えた。特に台風の影響によりイベントが中止となった。

4. 指標の分析

成果指標	①	限られた財源の中での整備のため、前年度実績値から1.1haの増加に留まり目標値に向けて低調に推移している。
	②	天候不順、夏の酷暑や台風などにより、前年度実績値から約108,000人減少し、目標値には程遠く、依然として基準値を下回っている。
市民の体感指標	ミズベリング138事業などにより新たな民間イベントが開催されたため、前年度実績値との比較、基準値との比較において、それぞれ0.8ポイント、6.7ポイント上昇し、良好に推移している。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D					
				Da 前回・今回	
	d	←	体感指標	→	a
成果指標と体感指標の乖離 あり					

5. 施策評価

Da

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
水と緑のオープンスペースの整備推進と利活用	公園・緑地整備事業	公園緑地課	○	★★	★★★★
	木曽川河川敷公園整備事業	公園緑地課	○	★★	★
	すこやか健康づくり公園整備事業	公園緑地課	要検討	★★★★	★
	緑道整備事業	公園緑地課	○	★★★★	★
	公園施設長寿命化対策事業	公園緑地課	○	★★	★★
	ミズベリング138事業	公園緑地課	○	★★	★★★★
	ツインアーチ138維持管理事業	公園緑地課	○	★	★
	138タワーパークイベント事業	公園緑地課	○	★★	★★
	県営農業農村整備事業(遊歩道)	治水課	○	★★★★	★★
民有地の緑化推進	いちのみやリバーサイドフェスティバル補助事業	公園緑地課	○	★★	★
	入学記念樹配布事業	公園緑地課	○	★★	★★
	民有地緑化推進補助事業	公園緑地課	○	★★	★★★★
潤いのある美しい緑地の保全と緑化の推進	都市公園・街路樹維持管理事業	公園緑地課	○	★★	★★
	市民参加による公園管理事業	公園緑地課	○	★★	★★
	市民ボランティアによる公園花壇管理事業	公園緑地課	○	★★	★★★★
	花いっぱい運動事業	公園緑地課	○	★★	★★★★
	ホテルも生息できる環境創出事業	公園緑地課	○	★★★★	★★
	県営農業農村整備事業(農業用水管)	治水課	○	★★	★★
	農業農村多面的機能支払補助事業	治水課	○	★★★★	★★
	北方地区基盤整備事業	治水課	○	★★★★	-
	単独土地改良事業	治水課	○	★★★★	★★★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容
すこやか健康づくり公園整備事業 (公園緑地課)	令和元年度末で事業完了。

9. 今後の方向性・改善計画

引き続き青木川河川敷公園や大江川緑道を始めとした都市公園の整備を推進するとともに、公園利用を促進させるためには、新型コロナウイルス感染症の対応を留意した上で、withコロナに適した規模や内容に心掛け、市民団体や国・県などと連携することで多様なイベントの開催を促進する。

<成果指標と体感指標の乖離について>

市民ニーズの多様化から民間主催のイベントも多数実施されているため、市が把握する成果指標と市民の体感指標に差が生じたのではないかと考えられる。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)		
	評価結果	評価の理由や提案等
	○	良くなっている 48.7%
△	変わらない 39.5%	・公園整備も必要であるが、それ以上に維持管理が必要である。
×	悪くなっている 11.8%	・広く開けた安全な公園づくりを充実して欲しい。

主担当部・課
まちづくり部 公園緑地課

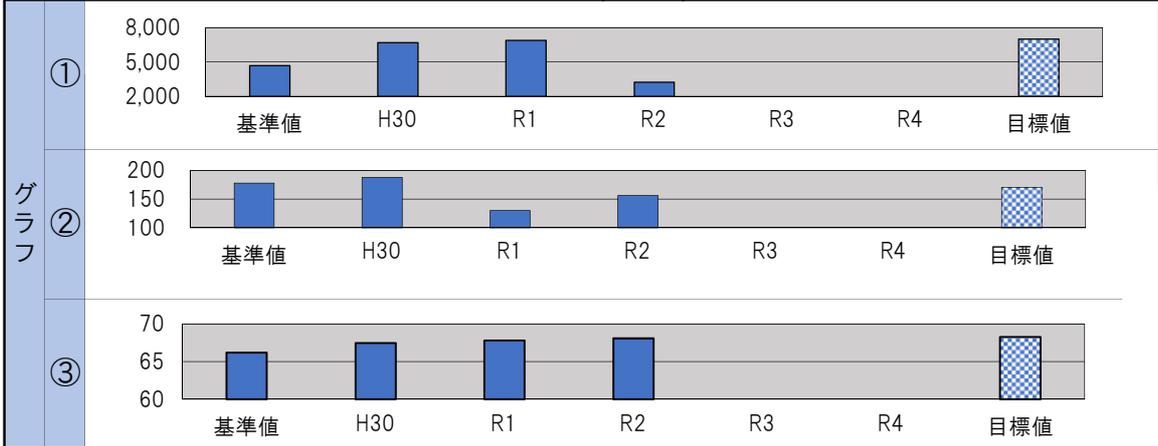
関係課
農業振興課、治水課

Plan 2 快適にくらす

施策10 良好な生活環境を確保します

1. 成果指標による評価

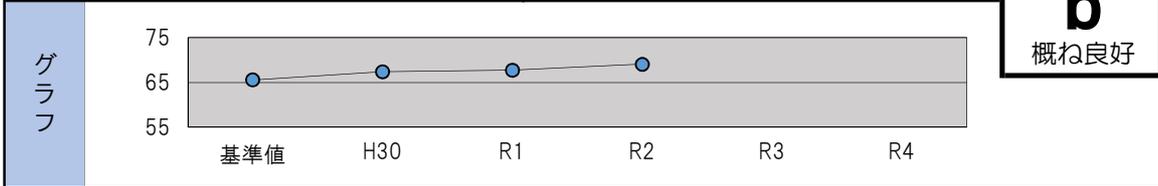
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① ポイ捨てごみの清掃活動の参加人数(人)	↗	4,687	6,693	6,869	3,217			7,000	D
② 典型7公害の苦情件数(件)	↘	178	188	130	156			170	A
③ 下水道普及率(%)	↗	66.2	67.5	67.8	68.1			68.3	A



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
生活環境が良好であると思う人の割合	65.6	67.4	67.8	69.1			b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・町内会や学校が主体となって通学路や生活道路周辺の清掃活動が定期的実施されるなど、環境美化に関する市民の意識が高まっている。
- ・騒音や悪臭の感じ方は、個々の感覚によるところが大きいため、案件によっては、行政指導による規制基準値内のレベルのものでも苦情として寄せられる。
- ・近隣住民からの通報をもとに行政指導を実施しても、対策が講じられるまでに時間を要する。

5. 施策評価
Bb

4. 指標の分析

成果指標	①	雨天により中止した団体が多かったため、前年度実績値から3652人減少しており、基準値を下回り、目標値から乖離している。
	②	現状より少しでも良好な生活環境にしたいと考えている市民から苦情が寄せられたため、前年度実績値から26件増加(悪化)しているが、引き続き目標値を達成している。
	③	汚水管の整備が進捗したため、前年度実績値から0.3ポイント増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑成果指標↓		Ab 前回	
		Bb 今回	
D			
	d ← 体感指標 → a		

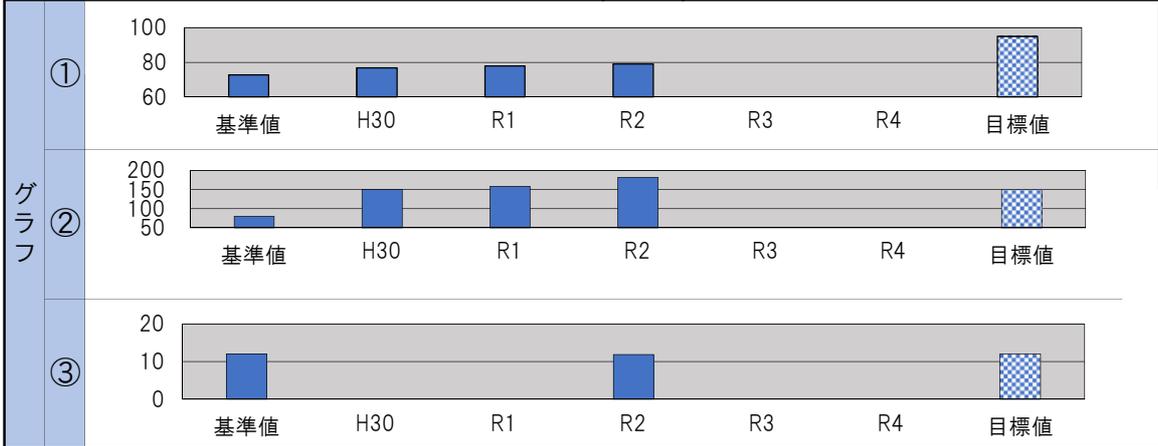
成果指標と体感指標の乖離なし

Plan 2 快適にくらす

施策11 総合的な住宅対策に取り組みます

1. 成果指標による評価

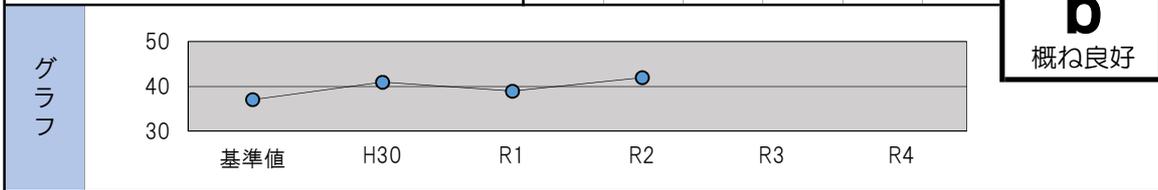
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 住宅の耐震化率 (%)	↗	72.8	76.8	77.9	79.1			95.0	C
② 木造住宅解体工事費の補助件数 (件)	↗	80	150	158	182			150	A
③ 空き家率 (%)	→	12.1	-	-	11.9			12.1	A



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
住宅が耐震や老朽化の観点から安心であると思う人の割合	37.1	41.0	39.0	42.0			b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・近年、全国各地で大規模な地震が発生し、この地方においても巨大地震発生が危惧されており、被害想定から死者数および経済被害等を減少させるため、建物の耐震化が、緊急かつ優先的に取り組む重要な課題となっている。
- ・全国的に空き家の増加が社会問題となっており、本市においても年々空き家に関する相談・苦情が増えている。

5. 施策評価
Bb

4. 指標の分析

成果指標	①	旧基準で建てられた木造住宅の解体は進んでいるが高齢者のみの世帯などの改修等が伸び悩んでいるため、前年度実績値から1.2ポイントの増加にとどまり、目標値に向けて低調に推移している。
	②	広報や町内回覧等の周知により、補助を利用する市民が増えたため、引き続き実績値が目標値を上回っている。
	③	空き家の適切な維持管理を促し、また、老朽化により周辺に対して被害を及ぼす危険性の高い空き家の除却を促進したため、基準値から0.2ポイント減少(改善)し、目標値を達成している。
市民の体感指標		前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス	
A	
↑ 成果指標 ↓	Bb 前回・今回
D	
	d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離 なし	

第7次総合計画 令和2年度 施策評価シート

Plan 2

快適にくらす

施策12

公共交通網の整備を進めます

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 市内バスの年間利用者数（千人）	↗	4,816	4,930	4,979	4,893			4,900	A

① グラフ		評価結果
		A 良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
市内の公共交通網が充実していると思う人の割合	35.0	37.8	36.2	40.3			a 良好

② グラフ		評価結果

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・高齢化の進展や免許返納者の増加などにより、公共交通の必要性が高まっている。
- ・バス乗務員の確保が難しくなっており、経費の増大や事業規模の縮小も予測される。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、公共交通機関の利用を控える傾向が見られる。

5. 施策評価

Aa

4. 指標の分析

成果指標	① 新型コロナウイルス感染症の影響のため、前年度実績値から86千人減少したものの、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標	継続して行っている公共交通を利用しやすくする取り組みにより、前年度実績値との比較、基準値との比較において、それぞれ4.1ポイント、5.3ポイント上昇し、良好に推移している。

6. 進捗状況マトリクス

		Ab 前回	Aa 今回
↑ 成果指標			
↓ 成果指標			
		d ← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離 なし			

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 歩行者・自転車関連の交通事故件数(件)	↓	730	790	742	558			610	A

① グラフ		評価結果
		A 良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
歩行者や自転車が、安心して通行できていると思う人の割合	28.3	29.5	32.1	32.7			b 概ね良好

② グラフ		評価結果

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・自転車は、日常生活における身近な移動手段やサイクリング等のレジャー手段として多くの人に利用されている。
 ・近年では、健康や環境への意識の高まりを背景に自転車のニーズが高まっている。一方で交通事故が減少傾向にあるなか、自転車対歩行者の交通事故は横ばいの状況であり、自転車の通行ルールの徹底を図るため、道路交通法の改正により、自転車の歩道通行可能要件の明確化や自転車運転による危険防止のための講習に関する規定等が整備された。また、各地の自治体で、自転車による交通事故の減少と、自転車事故による被害者の保護等を目的として、自転車条例が制定されつつある。
 ・児童や園児の痛ましい交通事故が相次いでおり、歩行者が安全に安心して通行できる道路交通環境の整備が求められている。

4. 指標の分析

成果指標	①	当初計画通り事業の進捗が図れ、また、警察の交通取締り強化などの影響が大きく前年度実績値から184人減少し、目標値を達成している。
	市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D		Ab 今回	
			Db 前回
	d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし			

5. 施策評価

Ab

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
人優先の安全で安心な歩行空間の整備	放置自転車対策事業	交通政策課	○	★★★	★
	歩道拡幅事業(光明寺二ツ屋線)	道路課	○	★★	★
	歩道拡幅事業(五城森上線)	道路課	○	★★★	★
	幹線道路整備事業(福塚線)	道路課	○	★★	★★★★
	幹線道路整備事業(今伊勢北方線)	道路課	○	★★	★★★★
	横断歩道橋保全事業	維持課	○	★★★★	★★★★
	通学路安全対策事業	維持課	○	★★	★★
	通学路安全対策事業	学校教育課	○	★★	-
安全で快適な自転車利用環境の整備	駐輪場管理事業	交通政策課	○	★★★★	★★
	自転車利用環境整備事業	都市計画課	○	★★★★	-
危険箇所の減少	交通安全施設整備事業	維持課	○	★★★★	★★
	生活道路交通安全対策事業	維持課	○	★★★★	-
	不法占用物撤去事業	道水路管理課	○	★★★★	-
	フェンス設置事業	治水課	○	★★	★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

新型コロナウイルス感染対策として、人との関りを低減するために自転車通勤・通学の一層の促進を図ることが求められている。R1年度に策定された一宮市自転車活用推進計画に基づき自転車通行空間の整備を進めていくなど、目標の達成に向け引き続き警察・関係機関と連携を図り各事業を推進する。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

--

主担当部・課

建設部 道路課

関係課

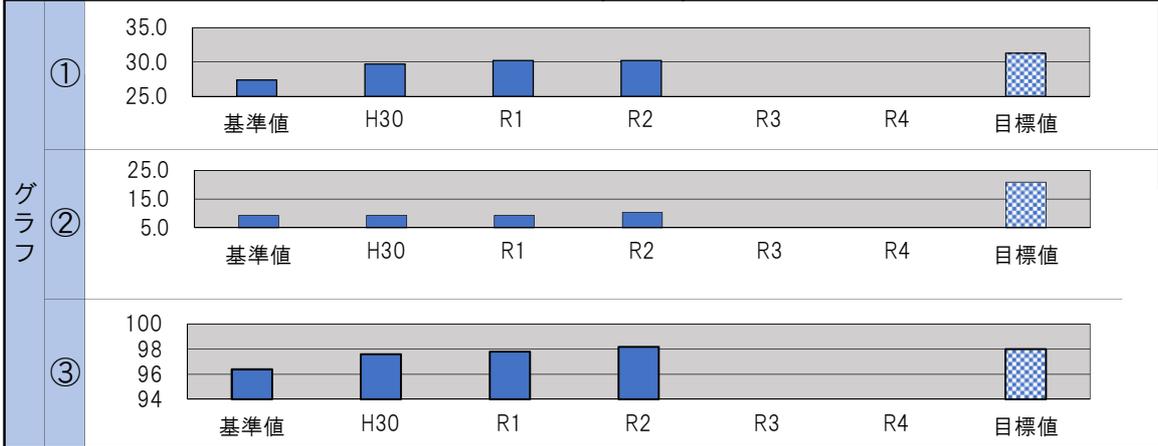
交通政策課、都市計画課、維持課、道水路管理課、治水課、学校教育課

Plan 3 安全・安心を高める

施策14 災害に強い社会基盤整備を進めます

1. 成果指標による評価

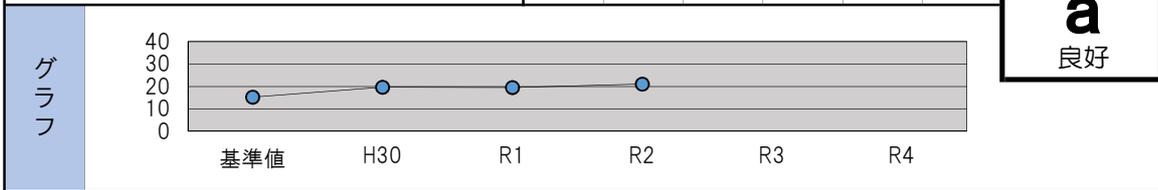
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 基幹管路の耐震化率 (%)	↗	27.4	29.7	30.2	30.2			31.3	A
② 主要橋梁の耐震化率 (%)	↗	9.3	9.3	9.3	10.4			20.9	C
③ ガス管の耐震化率 (%)	↗	96.4	97.6	97.8	98.2			98.0	A



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
災害に強いまちづくりができていると思う人の割合	15.3	19.7	19.6	21.1			a 良好



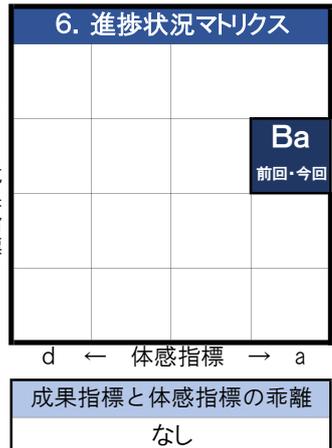
3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

国の中央防災会議や県から南海トラフの巨大地震の被害想定が発表され、頻繁にマスメディアにより報道されている。近年は豪雨などによる甚大な被害も各地で発生しており、今後も温暖化の影響によるゲリラ豪雨の頻発や台風強化も予測されている。このためハード面の整備についての関心が高まっている。

5. 施策評価
Ba

4. 指標の分析

成果指標	①	継続工事のため、前年度実績値から横ばいであるものの、目標値に向けて良好に推移している。
	②	耐震に関する計画を包括した橋梁保全に関する全体計画を策定した後に事業を進めていく予定であるため、前年度実績値からほぼ横ばいであり、目標値に向けて低調に推移している。
	③	最近、多くの災害が発生しているため、ガス管の災害対策を進めた結果、前年度実績値から0.4ポイント上昇しており、目標値を達成している。
市民の体感指標		防災への関心の高まりや各種整備等の効果により、前年度実績値との比較、基準値との比較において、それぞれ1.5ポイント、5.8ポイント上昇し、良好に推移している。



7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
災害時の交通路等の確保	木曾川河川敷公園整備事業	公園緑地課	○	★★	★
	緑道整備事業	公園緑地課	○	★★★★	★
	ブロック塀等撤去費補助金交付事業	建築指導課	○	★★	-
	幹線道路整備事業(福塚線)	道路課	○	★★	★★★★
	幹線道路整備事業(今伊勢北方線)	道路課	○	★★	★★★★
	橋梁保全事業	道路課	○	★★★★	★★
	下水道管改良事業	下水道整備課	○	★★	★★
災害時の飲料水の確保	水道管改良事業(応急給水栓)	上水道整備課	○	★★★★	★
	佐千原浄水場第2ポンプ棟建設事業	施設保全課	○	★★★★	★★
公共建築物および避難所の整備	防災施設充実強化事業	危機管理課	○	★★★★	★★
	公園・緑地整備事業	公園緑地課	○	★★	★★★★
浸水被害の軽減	総合治水対策事業(河川改修)	治水課	○	★★★★	★★★★
	総合治水対策事業(流域貯留施設等)	治水課	○	★★★★	★
	総合治水対策事業(河川等情報関連)	治水課	○	★★★★	★★
	総合治水対策事業(洪水ハザードマップ)	治水課	○	★★★★	-
	緊急農地防災事業	治水課	○	★★★★	★★
	県営農業農村整備事業(排水路・排水機場)	治水課	○	★★★★	★★★★
	生活関連治水事業	治水課	○	★★★★	★★★★
	公共下水道雨水管渠整備事業	下水道整備課	○	★	★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

成果指標は概ね良好に推移しており、各種の事業を引き続き推進し改善していく。なお、主要橋梁の耐震化率については、ほぼ横ばいではあるものの、市内管理道路にわたる橋梁は法令に基づく点検・診断を行い、その結果に基づく措置を行っていることにより常時良好な状態としている。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

--

主担当部・課

総合政策部 危機管理課

関係課

公園緑地課、建築指導課、道路課、治水課、
上水道整備課、下水道整備課、施設保全課

第7次総合計画 令和2年度 施策評価シート

Plan 3

安全・安心を高める

施策15

自主防災力の向上を図ります

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 自主防災会の結成率 (%)	↗	98.3	98.3	98.2	98.2			100.0	D
② あんしん・防災ねっと登録件数および一宮市防災ツイッターフォロワー数 (件)	↗	12,262	13,945	15,308	15,407			15,000	A

グラフ	①		評価結果 C 低調
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
地震や風水害の備えができていると思う人の割合	36.4	35.3	37.7	44.8			a 良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・国の中央防災会議や県から南海トラフの巨大地震の被害想定が発表され、頻繁にマスメディアにより報道されている。
- ・近年は豪雨などによる甚大な被害が各地で発生しており、今後も温暖化の影響によるゲリラ豪雨の頻発や台風強大化も予測されている。
- ・町内会、連区、企業では、防災訓練や防災教室など防災教育が行われている。

4. 指標の分析

成果指標	① 自主防災会は、100%に近い高い割合の町内会で結成されており、今年度は引き続き基準値を下回ったものの、未結成の町内会数は横ばいである。
	② あんしん・防災ねっとの登録者数は減少したものの、ツイッターのフォロワー数の増加のため、前年度実績値から99件増加しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	防災についての関心が高まり、防災講話等による自主防災意識の高揚により、前年度実績値との比較、基準値との比較において、それぞれ7.1ポイント、8.4ポイント上昇し、良好に推移している。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D				
			Cb 前回	Ca 今回
		d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし				

5. 施策評価

Ca

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
防災意識の高揚	防災訓練事業	危機管理課	○	★★	★★★★
	防災啓発事業	危機管理課	○	★★	★★★★
	総合的な防災ハンドブックの活用事業	危機管理課	○	★★	-
地域防災力の向上	自主防災組織育成事業	危機管理課	○	★★	-
	災害時たすけあい隊(災害時要援護者支援事業)	福祉課	○	★★	★
	災害時たすけあい隊(災害時要援護者支援事業)	高年福祉課	○	★★	-
災害時の情報提供	防災情報伝達事業	危機管理課	○	★★	★★★★
	たすけあい避難名簿(避難行動要支援者名簿)管理事業	福祉課	○	★★	★★★★

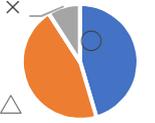
8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

自主防災会は、高い割合で結成され、防災訓練や防災講話等の活発な自主防災活動が行われている。
 あんしん・防災ねっと及びツイッターをはじめ自主防災意識の向上のため各種事業の積極的な啓発を行い、主要な事業を引き続き推進していく。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

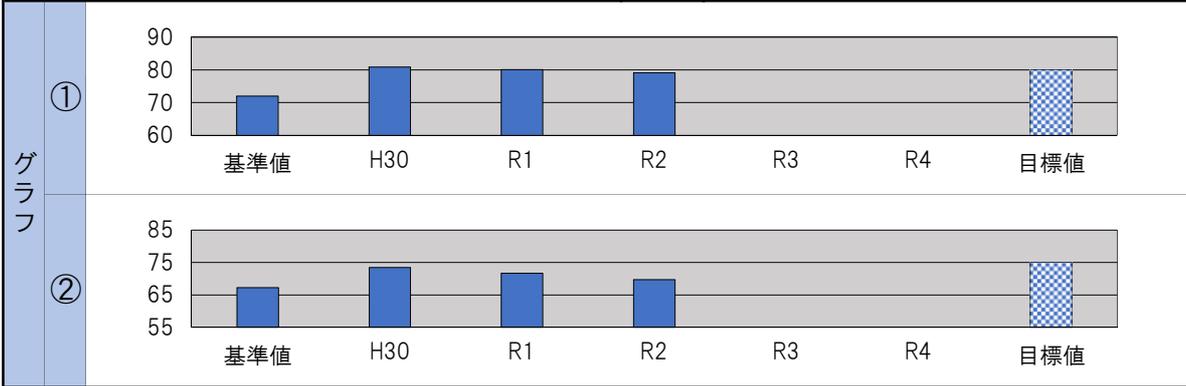
	評価結果	評価の理由や提案等
	○ 良くなっている	45.5%
△ 変わらない	45.5%	・形式的に自主防災組織を作成しているが、災害時に有効に機能するかどうか危うい。
× 悪くなっている	9.1%	・ハザードマップを全世帯に配布するとよい。 ・LINEが災害時の情報提供などに活用されるとよい。

主担当部・課
総合政策部 危機管理課

関係課
福祉課、高年福祉課

1. 成果指標による評価

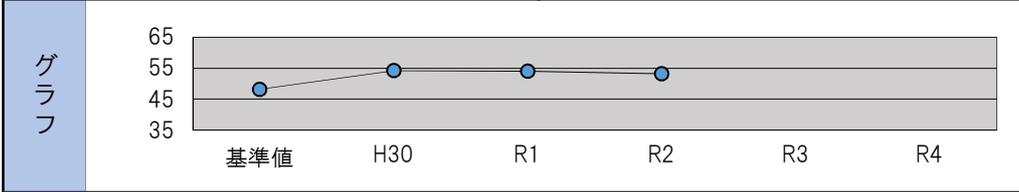
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 消火・消防訓練実施率(町内会単位)(%)	↗	72	80.8	80.1	79.1			80.0	A
② 応急手当の実施率(%)	↗	67.2	73.4	71.6	69.7			75.0	B



評価結果
B 概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
消防・救急体制が整っていると思う人の割合	48.2	54.2	54.0	53.2			b 概ね良好



評価結果
b 概ね良好

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・近年、頻発する大規模自然災害の影響により、市民や事業所等の防災に係る自助、共助意識が高揚傾向にある。
- ・救急出動件数は増加傾向にあり、病院前救護体制の充実が求められている。

4. 指標の分析

成果指標	<p>① 町内会単位で計画し実施しているため、実績値は変化する。前年度実績値から1ポイント低下しているものの、市民の防災意識は高揚傾向にあり、目標値に向けて概ね良好に推移している。</p> <p>② バイスタンダーCPR実施件数及び心肺停止傷病者搬送人員を基に算出された実績値であるため、件数の増減により実績値は変化する。前年度実績値から1.9ポイント低下しているものの、目標値に向けて概ね良好に推移している。</p>
市民の体感指標	<p>基準値との比較において、市民等の防災および応急手当の意識向上により、5ポイント上昇している。また、前年度実績値との比較においては、標本誤差を考慮し、総合的には良好に推移していると判断する。</p>

6. 進捗状況マトリクス

			Aa 前回
A ↑ 成果指標		Bb 今回	
D ↓ 成果指標			
	d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし			

5. 施策評価
Bb

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
火災予防・救急救命活動の啓発	住宅用火災警報器設置促進事業	予防課	○	★★	★★★★
	消火器取扱指導事業	一宮消防署管理課	○	★★★★	★★★★
	各種救命講習等実施事業	一宮消防署管理課	○	★★	★
	多言語通訳業務事業	通信指令課	○	★★★★	-
消防職員の育成	消防職員の教養・訓練事業	消防本部総務課	○	★★	★
	救急救命士養成事業	一宮消防署管理課	○	★★★★	★★
消防施設・設備の充実	消防団庁舎建設事業	消防本部総務課	○	★★★★	★★★★
	消防水利整備事業	消防本部総務課	○	★★★★	★
	消防自動車等整備事業	一宮消防署管理課	○	★★★★	★★★★
消防団活動の充実・活性化	消防団の普及啓発事業	消防本部総務課	○	★★	★★
	消防団員の加入促進事業	消防本部総務課	○	★★	★★★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

施策評価については「Bb」であるため、「Aa」を目指し引き続き事業を推進する。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

主担当部・課
消防本部 総務課

関係課
通信指令課、予防課、一宮消防署管理課

Plan 3 安全・安心を高める

施策17 交通事故を減らす取組を進めます

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値				目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3		
① 交通事故による死者数 (人)	↓	14	12	7	8		8	A
② 交通事故による負傷者数 (人)	↓	2,816	2,679	2,510	1,887		2,200	A
③ 運転免許証を自主返納した高齢者数 (人)	↑	489	1,022	1,005	1,672		1,000	A

グラフ	評価結果								
	①								A 良好
	②								
③									

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値				評価結果
		H30	R1	R2	R3	
交通事故の危険を感じたことがある人の割合	72.8	73.6	71.5	71.4		b 概ね良好

グラフ	評価結果							

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・愛知県は平成30年まで16年連続で交通死亡事故の発生件数が全国最多であり、令和元年については全国最多を返上することができたが、令和2年は8月末日現在、全国最多と極めて厳しい状況が続いている。
- ・愛知県は自動車の保有台数が全国1位ということもあるが、交通ルールを守らないために発生する事故が多いという実状がある。
- ・愛知県における交通事故死者数のうち、高齢者の被害者が半数以上を占めており、その中でも歩行中、自転車乗車中の道路横断中の事故が多発している。

5. 施策評価

Ab

4. 指標の分析

成果指標	①	交通ルールを遵守していても避けることが困難な交通事故が増加したため、前年度実績値から1人増加(悪化)しているものの、引き続き目標値を達成している。
	②	警察、地域住民および各種団体等と連携した啓発活動や、交通安全教育の普及等を行ったため、前年度実績値から623人減少(改善)しており、目標値を達成している。
	③	東京池袋での高齢運転者の自動車暴走による死傷事故が大きく報道されたことによる外的要因が主たる要因と考えられるが、前年度実績値から667人増加し、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

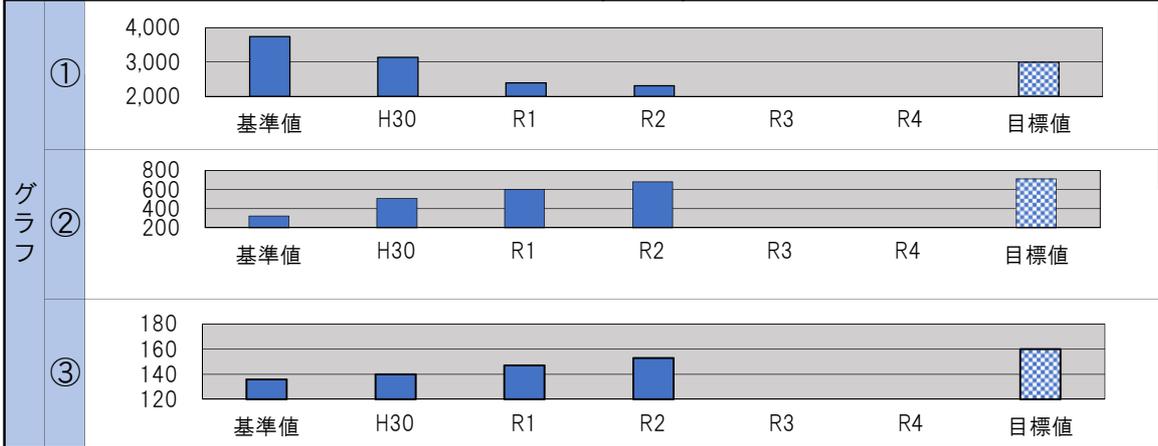
A ↑ 成果指標 ↓ D			Ab 前回・今回	
		d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離なし				

Plan 3 安全・安心を高める

施策18 防犯対策を進めます

1. 成果指標による評価

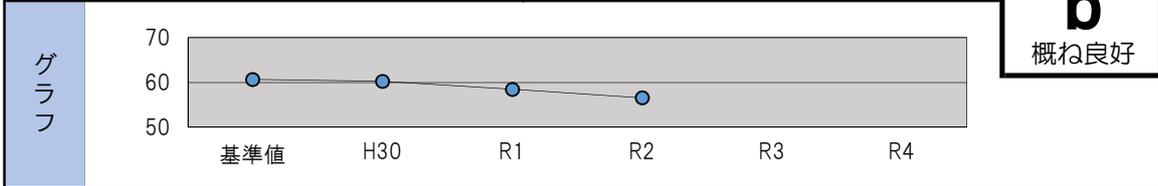
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 犯罪発生件数 (件)	↘	3,741	3,139	2,390	2,310			3,000	A
② 町内会等が設置した防犯カメラの台数 (台)	↗	322	506	600	681			710	A
③ 自主防犯パトロール隊の結成数 (団体)	↗	136	140	147	153			160	A



評価結果
A
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
犯罪への不安を感じたことがある人の割合	60.7	60.3	58.5	56.6			b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・愛知県の刑法犯認知件数は県民・警察・行政が一体となった取組を推進したこと等により、平成15年のピーク時に比べ令和元年には4分の1以下まで減少している。
 ・一宮市の刑法犯認知件数も地域住民・警察・行政の取組や協力等により、平成16年のピーク時から減少し、令和元年には4分の1以下となっている。しかしながら本市は県内の警察署別での認知件数が、毎年ワーストランキングの上位となっており、この要因として、高速道路のインターチェンジや鉄道といった交通機関が利用しやすいことに加え、住宅、自転車等にカギを掛ける習慣がない市民が多くいることが考えられる。

5. 施策評価
Ab

4. 指標の分析

成果指標	①	警察、地域住民および各種団体等と連携した啓発活動や、地域防犯教育の普及等を行ったため、前年度実績値から80件減少しており、引き続き目標値を達成している。
	②	町内会等が行った防犯カメラの設置費用の一部補助や、防犯カメラの維持費の定額補助、補助事業の周知を行ったため、前年度実績値から81台増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
	③	自主防犯パトロール隊に登録した個人、団体へ防犯資器材等の貸与や研修会の実施、事業の周知を行ったため、前年度実績値から6団体増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標		前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス	
A ↑ 成果指標 ↓ D	Ab 前回・今回
d ← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離 なし	

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
防犯啓発の推進	高齢者訪問事業	市民協働課	○	★	★
	防犯巡回パトロール業務委託事業	市民協働課	○	★★★★	★
	防犯教室事業	市民協働課	○	★★★★	★★★★
防犯カメラ設置の推進	共同防犯体制強化補助事業	市民協働課	○	★★	★★
	防犯カメラ設置補助事業	市民協働課	○	★★	★
	青色防犯パトロール車へのドライブレコーダー貸与事業	市民協働課	○	★★	★★★★
	市施設への防犯カメラ設置事業	市民協働課ほか	○	★★★★	-
自主防犯団体結成の推進	自主防犯活動支援事業	市民協働課	○	★★★★	★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

引き続き警察、地域住民および各種団体等と連携を図り、普及啓発活動や取組事業の周知等の各種事業を推進していく。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

主担当部・課
総合政策部 市民協働課

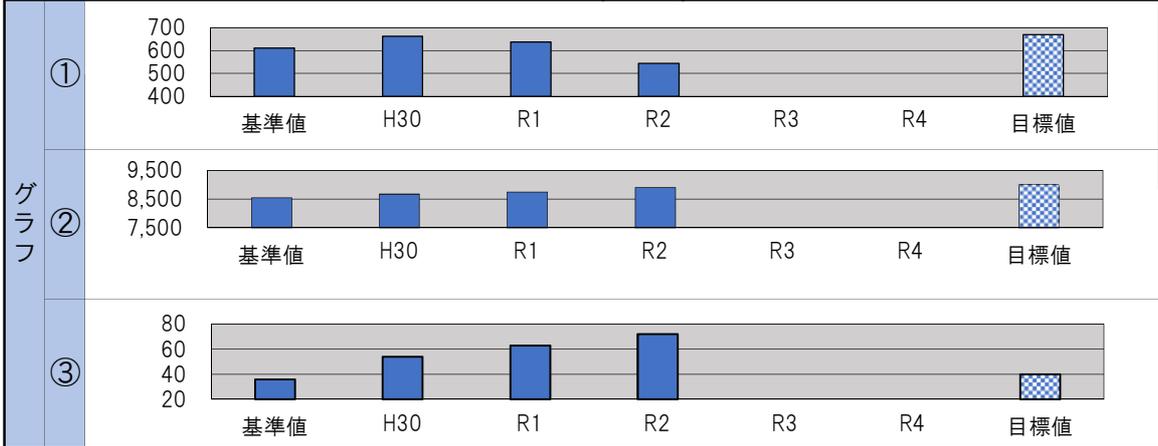
関係課
-

Plan 4 活力を生み出す

施策19 既存産業や次世代産業の育成を支援します

1. 成果指標による評価

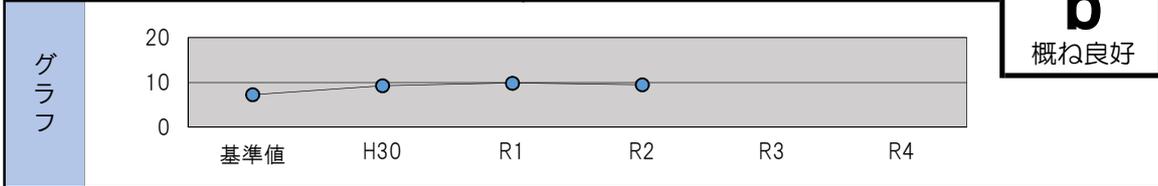
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 中小企業振興融資の助成件数 (件)	↗	611	663	637	544			670	D
② 法人数 (事業所)	↗	8,550	8,672	8,746	8,899			9,000	A
③ 奨励金を交付した企業の新增設の累積件数 (事業所)	↗	36	54	63	72			40	A



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
一宮市の企業は活力があると思う人の割合	7.3	9.3	9.9	9.5			b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・内閣府発表の令和元年度年次経済財政報告によると、日本経済の現状は、雇用・所得環境の改善が続き、企業収益が高水準で推移する中、内需の柱である個人消費や設備投資が増加傾向で推移するなど、緩やかな回復が続いているとしている。
- ・統計局の労働力調査によれば、令和元年平均の就業者数は、前年に比べ60万人増加している。
- ・保育の受け皿拡大等により、女性の就業者が46万人増加したことに加え、若者の失業率が3.4%と低水準となっている。
- ・災害復興やオリンピックにより、建築・建設等の需要が増え、景気回復の後押しをしている。

5. 施策評価
Bb

4. 指標の分析

成果指標	①	金利の低い銀行のプロパー融資を利用する事業者が増えたため、前年度実績値から93件減少し、基準値を下回り、目標値から乖離している。
	②	景気回復期の長期化により、新たに本市内に進出・企業する事業者が増えたため、前年度実績値から153事業所増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
	③	景気回復期の長期化により、企業の設備投資が徐々に拡大しているため、前年度実績値から9事業所増加しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

		Ab 前回	
A ↑ 成果指標		Bb 今回	
D ↓ 成果指標			
	d ←	体感指標	→ a

成果指標と体感指標の乖離なし

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
地場産業の持続的な発展	ジャパン・テキスタイル・コンテスト事業	商工観光課	○	★★	★
	FDC尾州モノづくり・プロモーション支援事業	商工観光課	○	★★	★
	(公財)一宮地場産業ファッションデザインセンター運営負担金交付事業	商工観光課	○	★★★★	★★
	尾州産地ブランド発信事業	商工観光課	○	★★	★★
各種事業所への支援と育成	いちのみや応援基金推進事業	行政課	○	★★	★★
	商工団体等事業費補助事業	商工観光課	○	★★	★
	特許及び実用新案出願支援事業	商工観光課	○	★	★★★★
	中小企業振興融資預託事業	商工観光課	○	★★	★
	中小企業振興融資等補助事業	商工観光課	○	★★	★
	中小企業相談所補助事業	商工観光課	○	★★★★	★★
	企業立地促進事業	企業立地推進課	○	★★★★	★
産業の多角化	企業立地促進事業	企業立地推進課	○	★★★★	★
	次世代産業育成支援事業	企業立地推進課	○	★★★★	-
	企業立地関連道路整備事業	道路課	○	★★★★	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

融資の助成件数は、景気が安定している状況で大きな増加は見込めないが、これ以外の成果指標は、基準値より増加傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の状況に留意しつつ、今後も引き続き推進していく。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

主担当部・課
経済部 商工観光課

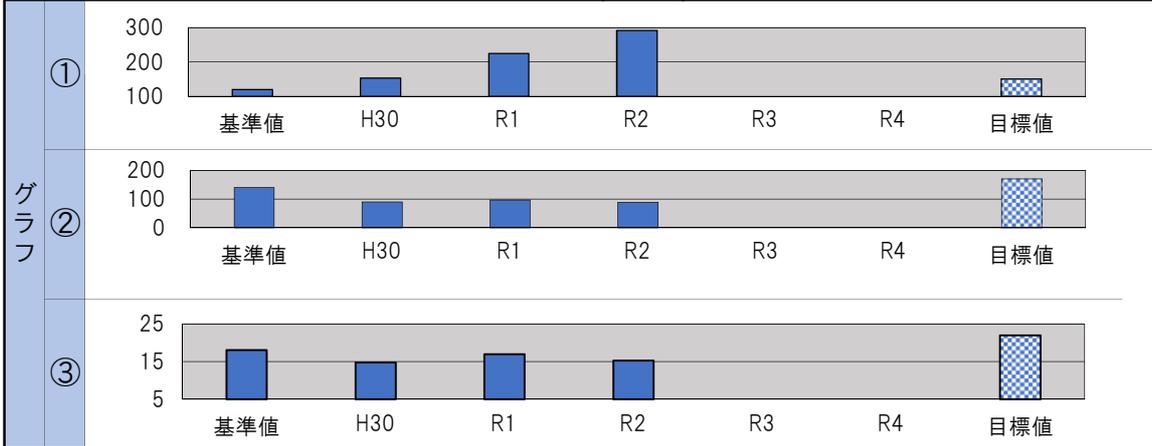
関係課
行政課、企業立地推進課、道路課

Plan 4 活力を生み出す

施策20 意欲を持って働けるよう就労支援を進めます

1. 成果指標による評価

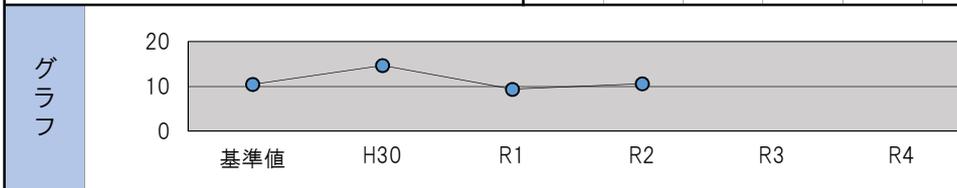
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 就職支援フェア来場人数 (人)	↗	120	153	225	292			150	A
② 離職者職業訓練の助成件数 (件)	↗	140	90	97	89			170	D
③ 市内の企業で働いている60歳以上の高齢者の割合 (%)	↗	18.1	14.8	17.0	15.3			22.0	D



評価結果
C
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
就労支援を必要とする人への支援がなされていると思う人の割合	10.5	14.7	9.4	10.6			b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・景気回復期間の長期化により、令和元年平均の就業者数は、前年に比べ60万人増加している。
- ・保育の受け皿拡大等により、女性の就業者が46万人増加したことに加え、若者の失業率が3.4%と平成4年以来の低水準となっている。
- ・厚生労働省の発表によると、令和2年3月大学等卒業者の就職状況の調査では、大学生の就職率は98.0%と調査開始以降、同時期で過去最高となった。
- ・令和元年労働力調査によると、高齢者の就職意欲は高いが、非正規の職員・従業員への就職割合が最も高くなっている。

5. 施策評価
Cb

4. 指標の分析

成果指標	①	景気回復等により中小企業の求人が増加し、また、より良い就職先を求める就職希望者も増加しているため、前年度実績値から67人増加しており、引き続き目標値を達成している。
	②	管内の有効求人倍率が高く求職者数が少ない状況が継続しているため、前年度実績値から8件減少し、引き続き基準値を下回り目標値から乖離している。
	③	労働条件のアンマッチが特に高齢者において顕著なため、前年度実績値から1.7ポイント低下し、依然として基準値を下回る水準にあり、目標値から乖離している。
市民の体感指標		前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス	
A ↑ 成果指標 ↓	
	Cb 前回・今回
D	
	d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離 なし	

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果						
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果			
			必要性	有効性	効率性	
障害者の就労、高年齢者の継続雇用の推進	障害者特別雇用奨励金支給事業	商工観光課	○	★★	★★★★	
	高年齢者雇用奨励金支給事業	商工観光課	要検討	★	★★	
若者の就職支援の拡大	若者就職支援事業	商工観光課	○	★★★★	★★★★	
離職者の技能習得の拡大	離職者職業訓練助成事業	商工観光課	要検討	★	★★	

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容
高年齢者雇用奨励金支給事業	令和元年度末で事業を廃止。
離職者職業訓練助成事業	令和元年度末で事業を廃止。令和2年度は、令和元年度中の訓練者に対する支給のみとする。

9. 今後の方向性・改善計画

「高齢者雇用奨励支給事業」と「離職者職業訓練助成事業」を廃止し、就職支援フェアの充実を図る。またこれまでの助成から、直接支援する場（面談）の提供を増やす。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)			
	評価結果	評価の理由や提案等	
	○ 良くなっている	26.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・地元でフルタイムで働ける場所があまりない。 ・シルバー人材センターがあまり知られていない。 ・働き方改革も含め、長く勤められる環境が必須だと思う。 ・就労支援がまだ十分でないと思う。
	△ 変わらない	53.3%	
× 悪くなっている	20.0%		

主担当部・課
経済部 商工観光課

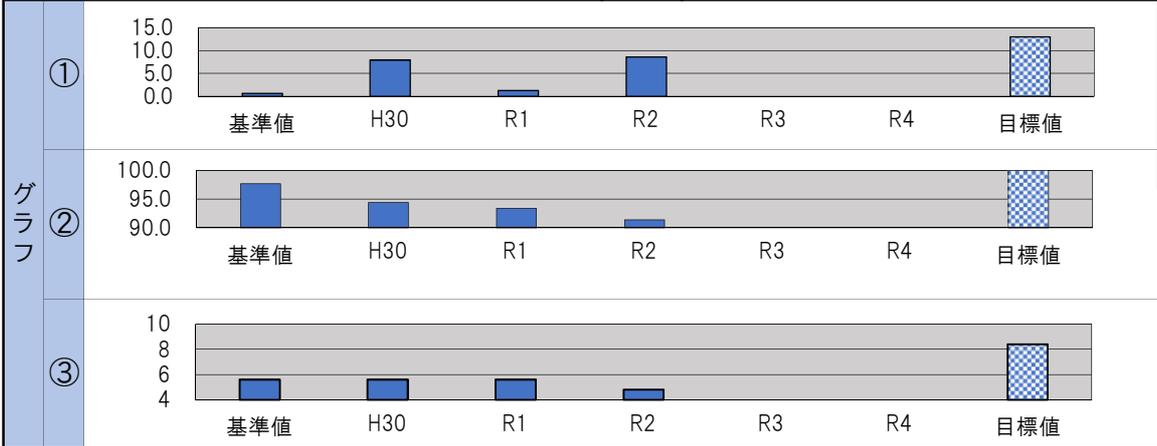
関係課
—

Plan 4 活力を生み出す

施策21 女性の活躍できる環境をつくります

1. 成果指標による評価

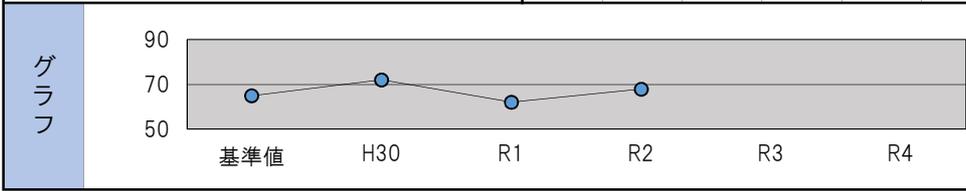
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 育児休業取得率（男性）（％）	↗	0.6	7.9	1.3	8.6			13.0	A
② 育児休業取得率（女性）（％）	↗	97.7	94.4	93.4	91.4			100	D
③ 就職を希望する女性の就職率（％）	↗	5.6	5.6	5.6	4.8			8.4	D



評価結果
C
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標（％）	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
男女差なく働けると感じている人の割合	65.0	72.1	62.2	67.9			b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・女性の就業率（15～64歳）は平成28～令和元年の3年間に、66.0%から70.9%と4.9ポイント上昇しており、共働き世帯数も年々増加している（総務省「労働力調査」より）。
- ・平成27年8月に「女性活躍推進法」が成立し、女性の活躍に対する機運が高まってきている。
- ・長時間労働の是正を始めとした「働き方改革」や平成29年10月に改正された「育児・介護休業法」等により、仕事と家庭の両立支援が求められている。

5. 施策評価
Cb

4. 指標の分析

成果指標	①	男性の育児休業取得に関する職場環境が改善されつつあり、前年度実績値から7.3ポイント上昇し、目標値に向けて良好に推移している。
	②	女性の育児休業取得に関する職場環境はある程度高い水準にあるが、中小企業が多い本市では人手不足により多忙で取りづらいうことが育児休業取得率低下の要因だと考えられ、前年度より2.0ポイント低下した。依然として基準値を下回る水準にあり、目標値から乖離している。
	③	保育施設の充実等、子育てをしながら再就職を希望する方に対する環境は徐々に整いつつあるが、就職を希望する女性の就職率については、前年度実績値から0.8ポイント低下し、基準値を下回り、目標値から乖離している。
市民の体感指標		前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A			
↑ 成果指標 ↓		Cc 前回	Cb 今回
D			
	d	← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離 なし			

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
女性のチャレンジ支援	女性再就職応援セミナー開催事業	政策課	○	★★	★★
ワーク・ライフ・バランスの推進	男女共同参画情報紙発行事業	政策課	○	★★★★	★
	認知症介護家族支援事業	高年福祉課	○	★★	★
	介護基盤整備事業	介護保険課	○	★★	★
	放課後児童クラブ運営事業	子育て支援課	○	★★★★	★★
	保育園の施設整備事業	保育課	○	★★	★★★★
	私立保育園の運営・整備助成事業	保育課	○	★★★★	★★★★
	認定こども園の運営・整備助成事業	保育課	○	★★★★	★★★★
	保育事業	保育課	○	★★	★★
	特別保育事業(延長保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(乳児保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(休日保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(病児・病後児保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★★	★★
	小規模保育改修費等支援補助事業	保育課	○	★★★★	★★★★
	小規模保育事業運営補助事業	保育課	○	★★	★
	放課後子ども教室事業	青少年育成課	○	★★	★★
事業所内保育施設の整備に対する助成事業	商工観光課	要検討	★	★★	

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容
事業所内保育施設の整備に対する助成事業(商工観光課)	令和元年度末で事業を廃止。

9. 今後の方向性・改善計画

市民の体感指標は好転したが、成果指標は依然として低調に推移している。育児休業の取得率の向上に向けて、各種の事業を引き続き推進していく中で、子育てと仕事の両立に向けた支援の更なる充実を目指す。また、女性の就職率に関連して、ニューノーマルに対応しながら、市が開催する女性再就職応援セミナーの内容を検討する等、セミナー参加者がより多く就職できるようにすることで指標数値を改善していく。市民の体感指標については、女性の活躍推進に関する記事を男女共同参画情報紙「いーぶん」に掲載するなど啓発事業を引き続き推進していく。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)				
	評価結果		評価の理由や提案等	
	○	良くなっている	36.0%	・他の市と比較して保育施設も充実し子育て中の女性も働きやすい環境になってきている。 ・男性の育児休業が増加しないと、女性が安心して働けない。 ・女性のライフステージの変化に柔軟に対応できるよう、市のサポートが簡単に受けられるような制度が必要。
	△	変わらない	48.0%	
	×	悪くなっている	16.0%	

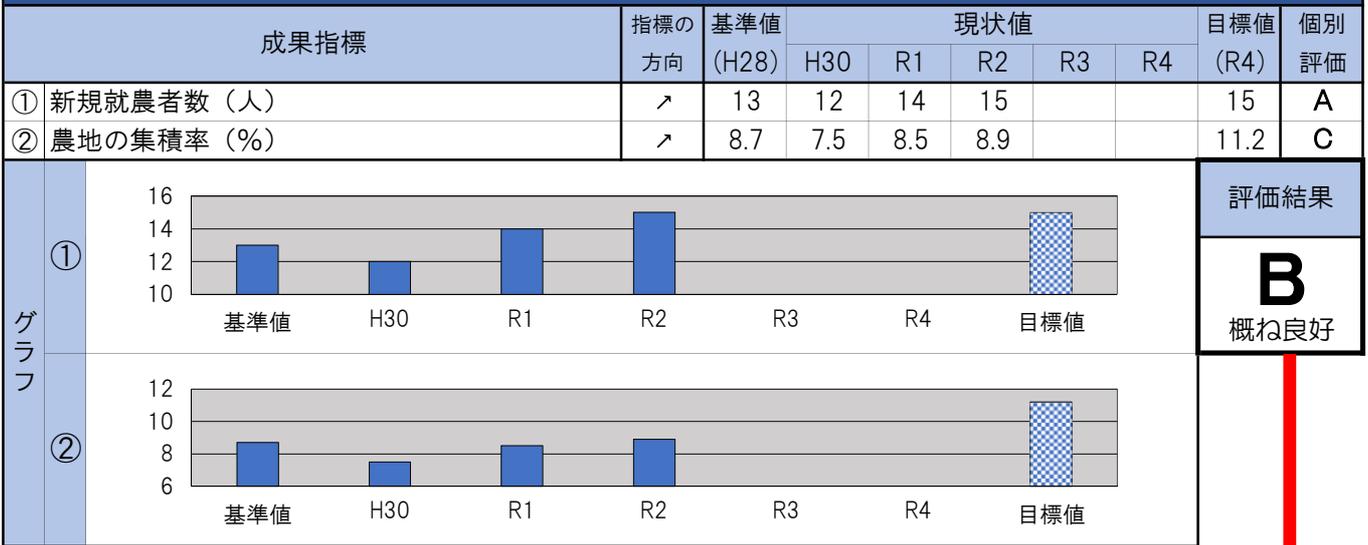
主担当部・課	
総合政策部	政策課

関係課
高年福祉課、介護保険課、子育て支援課 保育課、青少年育成課、商工観光課

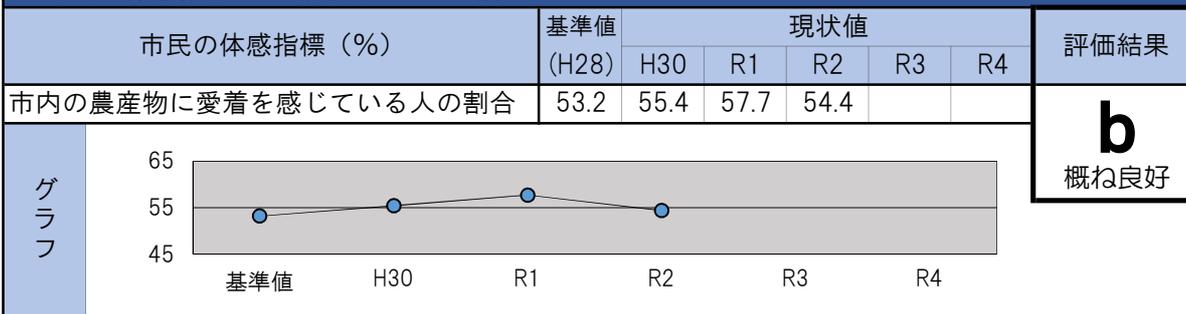
Plan 4 活力を生み出す

施策22 魅力があり持続的発展性のある農業を支援します

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・水田地帯では、機械の更新により省力化を図ることで経営体の規模を拡大している。
- ・多くの初期投資が必要な稲作での新規参入は難しく、また、畑作(野菜)での参入においても、まとまった農地が少ないことから園芸施設を利用するなど、面積あたりの収益率を高める必要があり新規参入は限定される。
- ・国による各種支援策については、農村地帯や中山間地に主眼を置いたものが多く都市近郊の比較的小規模の農業は置き去りになっている。
- ・安価な海外農産物の流入が、国産農産物の市場に影響を与えている。
- ・農村地域の人口減少と高齢化が進み、食料自給率の低迷に拍車をかけている。

4. 指標の分析

成果指標	① 農業塾卒塾生や家族後継者の就農により、前年度実績値から1人増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
	② 小規模農家の離農が進んでいるため、前年度実績値から0.4ポイント上昇したものの、農地中間管理機構での貸借が10年間と長期なこと、手続きが煩雑なことなどのため、目標値に向けて低調に推移している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A			Bb 今回	
↑ 成果指標 ↓			Cb 前回	
D				
	d	← 体感指標 →	a	
成果指標と体感指標の乖離 なし				

5. 施策評価

Bb

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
農地の集積・集約化、安心・安全な農産物の推進	農地集積・集約化対策事業	農業振興課	○	★★	★★★★
	地域農政総合推進事業	農業振興課	○	★★★★	-
	環境保全型農業直接支払補助事業	農業振興課	○	★★★★	★★★★
	残留農薬分析補助事業	農業振興課	○	★★★★	★
担い手の確保と育成の推進	新規就農総合支援事業	農業振興課	○	★★★★	★★★★
	農業後継者育成補助事業	農業振興課	○	★★★★	★★★★
	一宮市女性農業者会議補助事業	農業振興課	○	★★★★	★★★★
	はつらつ農業塾事業	農業振興課	○	★★★★	★
	農漁業近代化資金利子補給補助事業	農業振興課	○	★	★
農家の経営安定の推進	6次産業化・地産地消推進事業	農業振興課	○	★★★★	★★★★
	水田農業構造改革対策促進補助事業	農業振興課	○	★★	★★
	家畜防疫対策補助事業	農業振興課	○	★★★★	★

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

成果指標は上昇傾向にあるが農業従事者の年齢は高止まりしており、新たな就農者を育てなければならない。新たな就農者は「はつらつ農業塾」において募集、研修を行い育成、就農時や就農後の支援を充実することで確保する必要があります。

既存の農業者に対しては、コスト削減や規模拡大を図る積極的な農業者への支援や農地の集積を行うことで経営体質の強化を図ります。

また、市民に対しては「いちのみや野菜プロジェクト」をとおして地産地消や地元農産物のPRを行います。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

主担当部・課
経済部 農業振興課

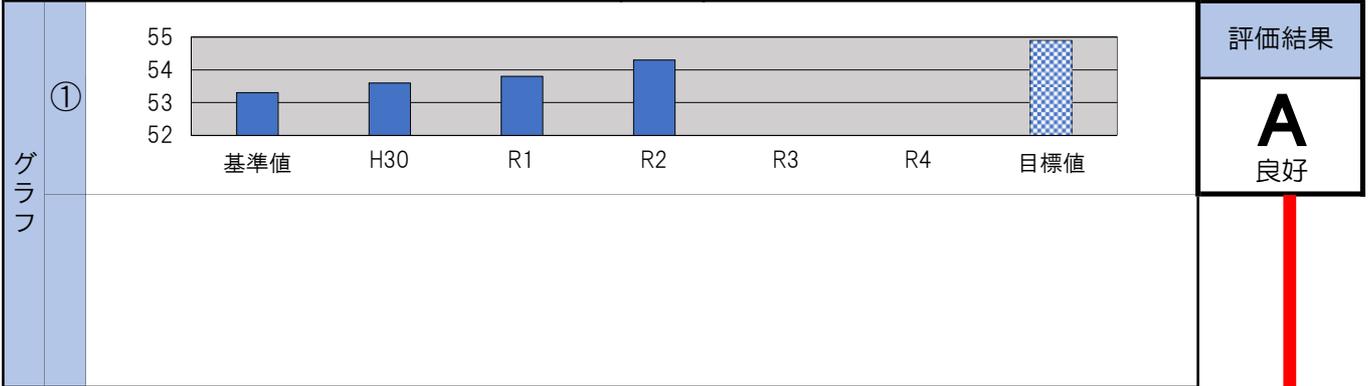
関係課
—

Plan 4 活力を生み出す

施策23 幹線道路の整備を進めます

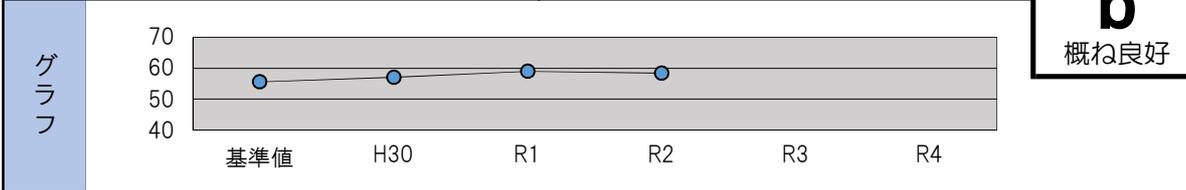
1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 市（周辺部）の都市計画道路の整備割合（％）	↗	53.3	53.6	53.8	54.3			54.9	A



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標（％）	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
幹線道路が整備されていると思う人の割合	55.6	57.1	59.0	58.4			b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・毎年のように全国的に大規模な自然災害が多発しており、災害時の迅速な救援活動や物資の運搬、その後の復旧に欠かせない緊急輸送道路のネットワーク強化が求められている。
- ・児童や園児の痛ましい交通事故が相次いでおり、歩行者が安全に安心して通行できる道路交通環境の整備が求められている。
- ・道路ストックの老朽化が深刻になっており、定期的な点検による補修など効率的な道路管理が課題となっている。

5. 施策評価

Ab

4. 指標の分析

成果指標	① 当初計画通り事業の進捗が図れたため、前年度実績値から0.5ポイント上昇しており、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D		Ab 今回	
		Bb 前回	
	d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし			

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
幹線道路の新設	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(名岐道路)	都市計画課	○	★★★	★
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(西尾張C)	都市計画課	○	★★★	-
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(名鉄尾西線高架化)	都市計画課	○	★★★	-
	幹線道路整備事業(福塚線)	道路課	○	★★	★★★★
	幹線道路整備事業(今伊勢北方線)	道路課	○	★★	★★★★
	幹線道路整備事業(木曾川古知野線)	道路課	○	★★★	-
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(萩原多気線)	道路課	○	★★★	★★
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(北尾張中央道)	道路課	○	★★★	★★
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(新濃尾大橋)	道路課	○	★★★	★★
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(名古屋江南線)	道路課	○	★★★	★★
幹線道路の保全	幹線道路舗装改良事業	道路課	○	★★	★
	橋梁保全事業	道路課	○	★★★★	★★
幹線道路の改良	歩道拡幅事業(光明寺二ツ屋線)	道路課	○	★★	★
	歩道拡幅事業(五城森上線)	道路課	○	★★★	★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

令和2年度末に福塚線・今伊勢北方線完成、供用開始予定。令和3年度以降も目標の達成に向け引き続き関係機関と連携を図り各事業を推進する。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

--

主担当部・課

建設部 道路課

関係課

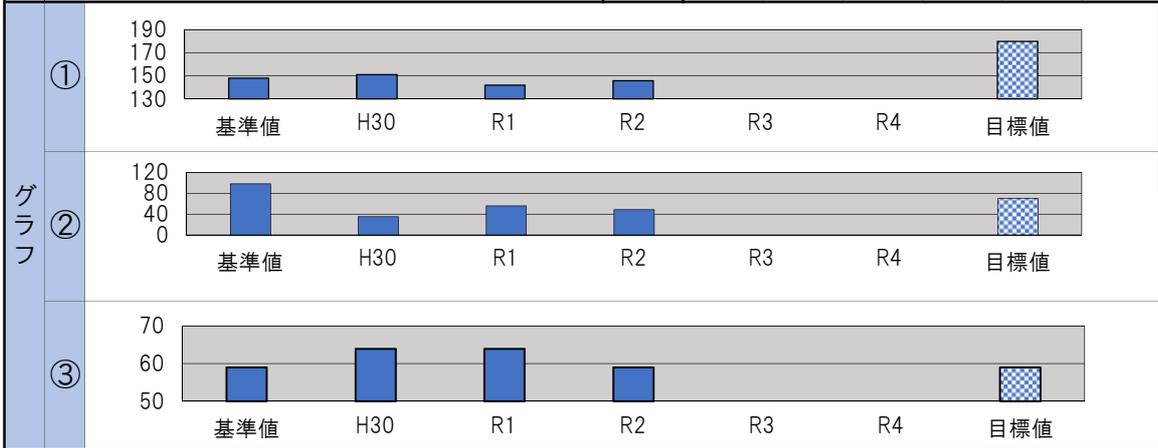
都市計画課

Plan 5 未来の人財を育てる

施策24 子どもから青少年まで健全に育つ環境をつくりま

1. 成果指標による評価

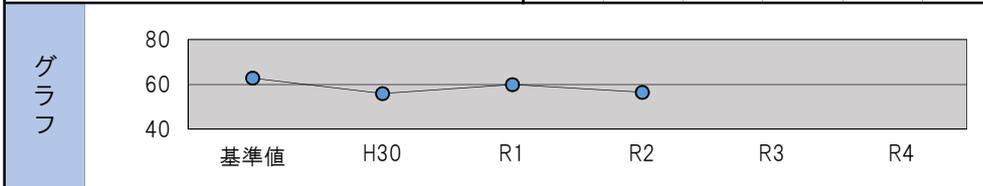
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 子ども・若者総合相談窓口の相談者数(人)	↗	148	151	142	146			180	D
② 初発型非行の検挙人数(人)	↘	98	35	56	48			70	A
③ 子ども会事業の実施数(回)	→	59	64	64	59			59	A



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
子どもが社会性を身につけていると思う人の割合	62.9	56.0	60.0	56.6			b 概ね良好



b
概ね良好

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・市民のライフスタイルや価値観の多様化、プライバシー意識の高まりなどにより、地域のつながりが希薄化し、地域の子どもの育てる力が低下している。
- ・スマートフォンやインターネット等の普及により簡単に有害な情報を手に入れられるようになり、見知らぬ他人との接触機会が生じるなど、未成年の非行や犯罪被害に多大な影響を及ぼしている。
- ・核家族化に少子化、疑似体験などの高度な情報化、SNSなどのコミュニケーションツールの浸透により、子どもたちが実際の体験活動を通して他者との交流を深める機会が少なくなっている。

5. 施策評価
Bb

4. 指標の分析

成果指標	①	家庭内不和や学業に悩む相談が多く、前年度実績値から4人増加したものの、引き続き基準値を下回り、目標値から乖離している。
	②	地域や学校、警察と連携した市民運動や啓発活動が浸透しているため、前年度実績値から8人減少し、引き続き目標値を達成している。
	③	前年度実績値から5回減少したものの、計画的な定例会の実施や各種事業への継続的な参加により、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標		前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A			Bb 前回・今回	
↑ 成果指標				
↓				
D				
		d ←	体感指標	→ a

成果指標と体感指標の乖離
なし

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
気軽に相談できる場の充実	子ども悩みごと相談事業	こども家庭相談室	○	★★★★	★★★★
	子ども・若者総合相談事業	青少年育成課	○	★★	★★
地域と共に進む啓発活動	青少年健全育成事業	青少年育成課	○	★★	★
	地域青少年育成会活動助成事業	青少年育成課	○	★★	★★
子どもたちが体験等を通して成長できる場の提供	子ども会育成事業	子育て支援課	○	★★	★★★★
	ジュニアリーダー養成事業	子育て支援課	○	★★	★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

「子ども・若者総合相談窓口の相談者数」のうち、学校生活における相談は、スクールソーシャルワーカーの導入により少なくなってきているが、卒業後も継続して支援が受けられるように、在学中に相談窓口の認知度を高め、学校との連携を強化する体制を整えていく。また、社会人や親世代に対してもより積極的に相談事業をPRし、問題の孤立化を防いでいく。
その他についても、施策の実現に向けて、引き続き各事業を推進していく。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

--

主担当部・課

こども部 青少年育成課

関係課

子育て支援課、こども家庭相談室

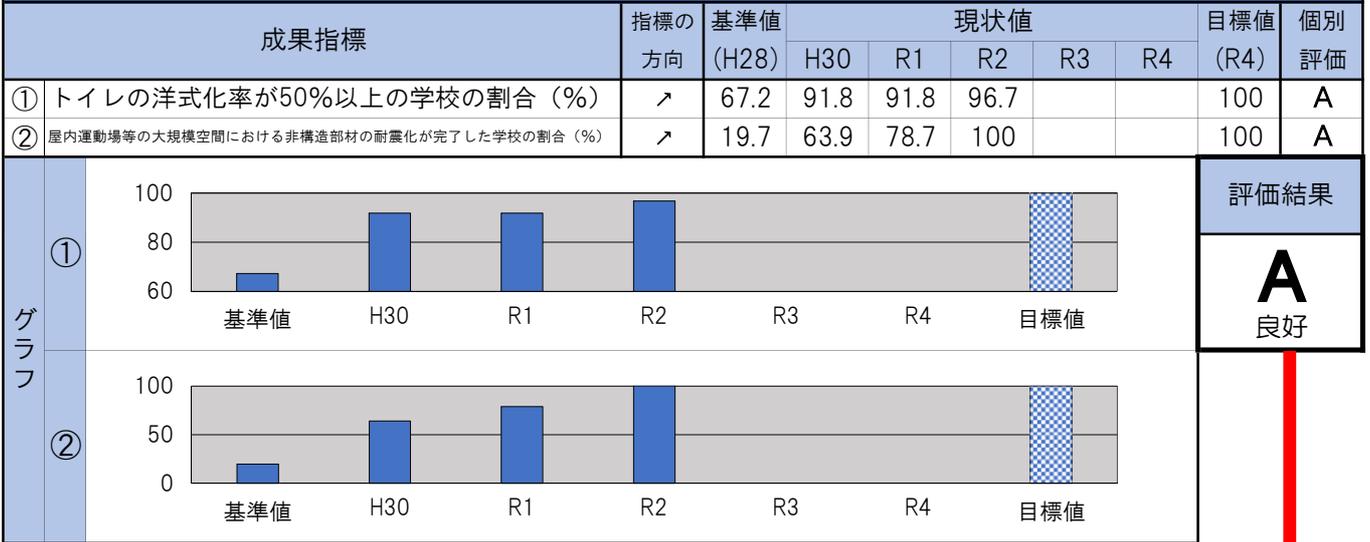
Plan 5

未来の人財を育てる

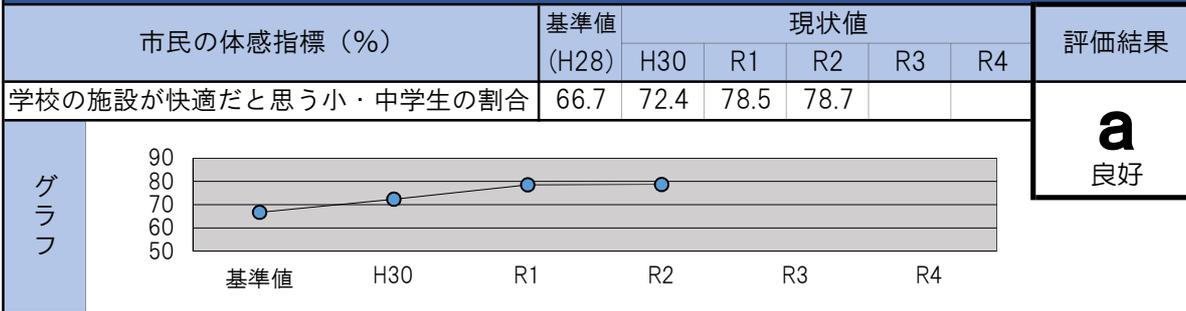
施策25

学校教育施設を整備します

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・家庭において洋式トイレが主流になっている現状を踏まえ、洋式化率の向上が強く求められている。
- ・災害発生時に備え、文部科学省より非構造部材の耐震化の早期完了を求められている。
- ・近年の猛暑などから、名古屋市をはじめ県内他市町村においても空調設備の整備が進んでいる。
- ・学校施設について、効率的な老築化対策による長寿命化の推進が求められている。

5. 施策評価

Aa

4. 指標の分析

成果指標	①	小学校1校、中学校1校においてトイレの洋式化を実施したため、前年度実績値から4.9ポイント上昇し、目標値に向けて良好に推移している。
	②	小学校13校の屋内運動場において非構造部材の耐震化を実施したため、前年度実績値から21.3ポイント上昇しており、目標値を達成している。
市民の体感指標		学校施設の整備の推進により、前年度実績値との比較、基準値との比較において、それぞれ0.2ポイント、12ポイント上昇し、良好に推移している。

6. 進捗状況マトリクス

A										Aa
↑	成果指標									前回・今回
D										
										a
									d	
										体感指標
										成果指標と体感指標の乖離なし

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
学校施設の長寿命化の推進	学校施設の個別施設計画策定事業	教育文化部総務課	○	★★★	★★★★
教育環境の質的整備の推進	空調設備整備事業	教育文化部総務課	○	★★★	★★★★
	トイレ改修事業	教育文化部総務課	○	★★★	★
	教室改修事業	教育文化部総務課	○	★★★	★★★★
	非構造部材の耐震化事業	教育文化部総務課	○	★★★	★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

成果指標と市民の体感指標のいずれも良好に推移しており、引き続きトイレの洋式化率の向上や学校施設の長寿命化の推進により、児童生徒に安全で快適な教育環境を提供していく。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

主担当部・課
教育文化部 総務課

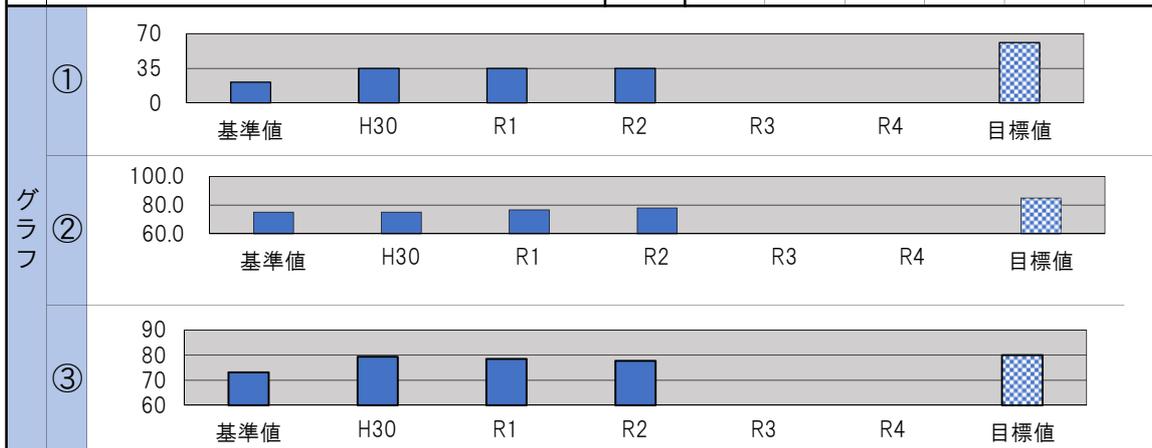
関係課
—

Plan 5 未来の人財を育てる

施策26 特色ある教育活動を実施します

1. 成果指標による評価

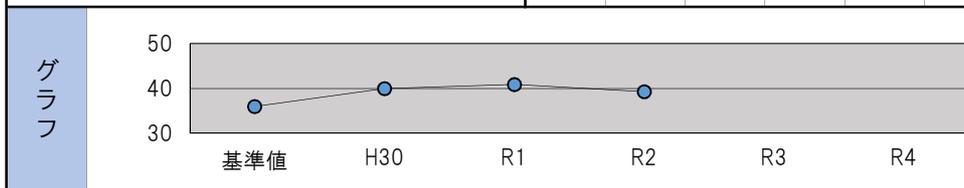
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① プログラミング教育の実施校数(校)	↗	21	35	35	35			61	B
② 教員の情報機器活用研修の履修率(%)	↗	75.0	75.0	76.8	78.2			85.0	B
③ 英語テストで8割以上正解できた児童の割合(%)	↗	73.2	79.3	78.5	77.8			80.0	A



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
特色ある教育活動が行われていると思う人の割合	36.0	40.0	40.9	39.3			b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・学習指導要領の改訂により、令和2年度から小学校でのプログラミング教育の必修化など情報教育のより一層の充実が求められている。また、情報活用能力が言語能力等と同様に学習の基盤となる資質・能力と位置づけられたため、教職員も教育の情報化に対応していく必要がある。
・学習指導要領の改訂により、小学校では令和2年度から5、6年生において外国語活動が教科として全面实施されるなど、英語学習の必要性が年々高まっている。

5. 施策評価

Bb

4. 指標の分析

成果指標	①	今年度は新学習指導要領完全実施の前のため、前年度実績値と変わらず横ばいであるものの、目標値に向けては概ね良好に推移している。
	②	新学習指導要領の完全実施に向け、情報機器活用に対する意識が高まり、研修の受講者が増加したため、前年度実績値から1.4ポイント上昇し、目標値に向けて概ね良好に推移している。
	③	前年度実績値から0.7ポイント低下しているものの、平成21年度より教育課程特例校の指定を受け、英語活動を継続してきたため、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標		前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D				
			Bb 前回・今回	
d ← 体感指標 → a				
成果指標と体感指標の乖離 なし				

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
未来に生きる力の育成	正確かつ必要な情報通信技術(ICT)獲得のための教育の充実事業	学校教育課	○	★★★★	★★★★
	英会話指導講師・英語指導講師派遣事業	学校教育課	○	★★	★★
家庭・地域社会・学校の連携強化	学校運営協議会の充実事業	学校教育課	○	★★★★	★★
	魅力あふれる学校づくり推進事業	学校教育課	○	★★	★★
教員の指導力の向上	訪問研修アドバイザー派遣事業	学校教育課	○	★★	★★★★
	ステップアップ研修事業	学校教育課	○	★★	★★
笑顔で登校できる学級・学校づくり	不登校対策推進事業	学校教育課	○	★★	★★
	いじめ対策推進事業	学校教育課	○	★★★★	★★★★
	学級生活調査委託事業	学校教育課	○	★★	★★
	心の教室相談員配置事業	学校教育課	○	★★	★★
	一宮市スクールカウンセラー配置事業	学校教育課	○	★★	★★
	スクールソーシャルワーカー配置事業	学校教育課	○	★★★★	★★★★
	教育支援センター運営事業	学校教育課	○	★★	★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

小学校では新学習指導要領が今年度から完全実施され、プログラミング学習が本格実施、小学校英語は教科となったため、今後一層、目標達成に向けて引き続き各事業を推進していく。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

主担当部・課
教育文化部 学校教育課

関係課
—

第7次総合計画 令和2年度 施策評価シート

Plan 5

未来の人財を育てる

施策27

する・みる・ささえるスポーツ活動を支援します

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① スポーツ活動をする市民の数(万人)	↗	254.2	250.2	265.9	222.8			260.0	D
② スポーツ指導者およびスポーツボランティア登録者数(人)	↗	3,000	3,725	3,413	3,572			3,200	A

グラフ	①		評価結果 C 低調
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
スポーツに親しむ機会が多くあると思う人の割合	21.5	24.3	27.1	26.1			a 良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・平成27年10月に国民の健康増進を目的にスポーツ庁が設置され、子どもの体力向上、国民のスポーツライフ、競技力の向上などスポーツ振興に取り組んでいる。
- ・東京オリンピック・パラリンピックを見据え、スポーツへの関心は年々高まっており、大会に向けた選手の強化を目指している。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、スポーツ活動は大幅に自粛を求められており活動が制限されている状況が続いている。

4. 指標の分析

成果指標	①	令和2年1月より施設予約システムにおける利用者数の集計方法が変更されたため、前年度実績値から43.1万人減少しており、基準値を下回り、目標値から乖離している。
	②	審判技術、指導技術の講習等受講者が、前年度実績値から159人増加しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	基準値との比較において、スポーツへの関心の高まりから4.6ポイント上昇している。また、前年度実績値との比較においては、標本誤差を考慮し、総合的には良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D				Aa 前回
				Ca 今回
				d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離 なし				

5. 施策評価

Ca

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
競技スポーツの推進	学校体育施設開放事業	スポーツ課	○	★★	★★
	市民大会開催事業	スポーツ課	○	★★	★
	スポーツの普及・選手育成事業	スポーツ課	○	★	★
	体育施設整備事業	スポーツ課	○	★★	★
	スポーツ施設整備事業	スポーツ課	○	★★	★
	指定管理施設整備事業	教育指定管理課	○	★★★★	★
生涯スポーツの推進	すこやか健康づくり公園整備事業	公園緑地課	要検討	★★★★	★
	生涯スポーツ振興事業	スポーツ課	○	★★★★	★★
	地域スポーツ振興事業	スポーツ課	○	★★	★★
	学校体育施設開放事業	スポーツ課	○	★★	★★
	体育施設整備事業	スポーツ課	○	★★	★
	スポーツ施設整備事業	スポーツ課	○	★★	★
	指定管理施設整備事業	教育指定管理課	○	★★★★	★
各種スポーツ大会などの観戦の推進	広域スポーツ大会運営補助事業	スポーツ課	○	★★★★	-
	ビッグプロジェクト等誘致推進事業	スポーツ課	○	★★★★	★
	関西・一宮セブンズラグビーフットボール事業	スポーツ課	○	★★★★	★★
指導者の確保	スポーツ指導者養成事業	スポーツ課	○	★	★
	スポーツ推進委員研修事業	スポーツ課	○	★★	★★★★

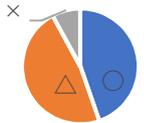
8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容
すこやか健康づくり公園整備事業 (公園緑地課)	令和元年度末で事業完了。

9. 今後の方向性・改善計画

新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつも、今後も「する・みる・ささえる」スポーツ活動を普及するため、より市民が参加しやすく楽しんでもらえるよう各事業を推進していくとともに、トップレベルの大会等を誘致できるよう努めていく。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

	評価結果		評価の理由や提案等
	評価	割合	
○	良くなっている	44.7%	・ラグビーなど外国チームの誘致は評価できる。 ・もっとスポーツ施設を整備してほしい。
△	変わらない	47.4%	
×	悪くなっている	7.9%	

主担当部・課

教育文化部 スポーツ課

関係課

公園緑地課、教育指定管理課

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 無形文化財・無形民俗文化財の保存を担っている人の数(人)	→	1,084	1,082	1,074	1,014			1,084	C
② 博物館等の入館者数および催事参加者数(人)	↗	144,512	149,181	132,035	129,891			159,000	D

グラフ	①		評価結果 D 悪化
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
一宮市の歴史や文化に親しむ機会があると思う人の割合	18.4	20.1	19.9	19.1			b 概ね良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・無形民俗文化財に指定された伝統行事のうち、継続が難しくなり休廃止されたものが数多いのが現状で、その背景として、娯楽の多様化・核家族化・地域住民間の希薄化・少子化などによる担い手の減少や高齢化があるといわれる。さらにコロナ禍による行事の中止や縮小により、保存会運営が存続の危機に瀕している。
 ・平成31年4月施行の文化財保護法の改正の趣旨で、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方文化財保護行政の推進力の強化を図ることが明示されている。これを受け、令和2年5月に「愛知県文化財保存活用大綱」(案)が策定され、市町村にも文化財保存活用地域計画の作成が推奨される。

4. 指標の分析

成果指標	① 担い手の高齢化のため、前年度実績値から60人減少しており、目標値を維持できなかった。
	② 開館20周年記念行事で盛況だった三岸節子記念美術館の翌年の入館者数の減少が大きかったため、多くの増加分でも吸収しきれず、前年度実績値から2,144人減少し、基準値を下回り、目標値から乖離している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D					
			Cb 前回		
			Db 今回		
	d	←	体感指標	→	a
成果指標と体感指標の乖離 なし					

5. 施策評価

Db

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
魅力ある催事の企画とPRの推進	一宮市美術展開催事業	生涯学習課	○	★★	★
	文化団体への各種事業委託事業	生涯学習課	○	★★	★★
	民俗芸能発表会事業	生涯学習課	○	★★	★
	博物館展示事業	博物館事務局	○	★★	★
	博物館管理事業	博物館事務局	○	★★	★★★★
	歴史民俗資料館展示事業	博物館事務局	○	★★	★★★★
	歴史民俗資料館管理事業	博物館事務局	○	★★★★	★★
	美術館展示事業	博物館事務局	○	★	★★
	美術館管理事業	博物館事務局	○	★★	★
	生涯学習出前講座事業	博物館事務局	○	★★★★	-
文化財の計画的な維持管理	指定文化財管理事業	博物館事務局	○	★★★★	★★
	文化財保護補助事業	博物館事務局	○	★★★★	★★★★
	民俗芸能伝承推進事業	博物館事務局	○	★★	★★
	民俗芸能伝承保存補助事業	博物館事務局	○	★★★★	★★

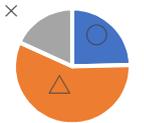
8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

Web、SNS (Twitter・Facebook・Instagram)、広報、フリーペーパー、新聞取材、ICC (ケーブルテレビ) 番組取材などあらゆる媒体でPRを図っているが、届いていない市民が多いのも実情である。興味を持たないと情報もキャッチされないが、歴史民俗や芸術文化に触れたいとなった時にはいつでも学べる場として、魅力ある活動を継続していく。巡回展や博物館・美術館・資料館とのタイアップ催事や市外の他館との協力などにも取り組み、各館の魅力を知っていただく。また、施設の老朽化に対応したり課題は多いが、できることからやっていく。今後もコロナウイルスの対策をしながら、催事や行事を実施していく。伝統行事の中止後の再開ができるか危惧されるが、今後も存続できるよう支援していく。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

	評価結果		評価の理由や提案等
	○ 良くなっている	△ 変わらない	
	○ 良くなっている	24.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・尾西歴史民俗資料館が充実した。 ・体験学習の場が設けられている点が良い。 ・催事のアピールが足りない。
	△ 変わらない	57.1%	
	× 悪くなっている	18.2%	

主担当部・課

教育文化部 博物館事務局

関係課

生涯学習課

第7次総合計画 令和2年度 施策評価シート

Management 1

人を呼び込む ～シティプロモーション～

施策 1

子育て世代に選ばれるまちをつくります

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 直近5年間の人口の社会増減累計(人)	↗	985	1,803	1,869	2,380			2,170	A
② 若年層の人口構成比(%)	↗	16.8	16.0	15.7	15.6			16.0	C

グラフ	①		評価結果 B 概ね良好
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
一宮市は子育てするのに適したまちだと思う人の割合	46.1	49.6	46.6	48.2			b 概ね良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・日本の総人口は平成20年をピークに減少しているが、愛知県の人口は、平成28年より自然増減が減少に転じたものの、社会増の状況が続いており、総人口は増加が続いている。一宮市においても、社会増が続いているが、自然減が大きく、市の人口は平成24年をピークにゆるやかな減少が続いている。
- ・全国的に若年層での東京圏への転出超過が続いており、一宮市も同様の傾向である。
- ・働き方の変化により、子育て環境の整備が求められている。
- ・全国的に移住対策を行う自治体が多く、競争は激化している。
- ・本市の基幹産業である繊維産業は、安価な輸入品の増大等の影響により規模が縮小傾向にある。

4. 指標の分析

成果指標	①	転入者数が順調に伸びたため、前年度実績値から511人増加しており、目標値を上回った。
	②	総人口の減少率以上に若年層人口の減少率が大きかったため、前年度実績値から0.1ポイント低下し、目標値に対して悪化している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D					
			Bb 今回		
			Cb 前回		
	d	←	体感指標	→	a
成果指標と体感指標の乖離 なし					

5. 施策評価

Bb

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
デュークス(DEWKS)に向けた戦略的な情報発信	デュークス(DEWKS)に向けた情報発信事業	政策課	○	★★	★★★★
知名度を上げるための事業の展開	138タワーパークイベント事業	公園緑地課	○	★★	★★
	いちのみやリバーサイドフェスティバル補助事業	公園緑地課	○	★★	★
子育て・教育環境のイメージの向上	放課後児童クラブ運営事業	子育て支援課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(延長保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(乳児保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(休日保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(病児・病後児保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★★	★★
	放課後子ども教室事業	青少年育成課	○	★★	★★
	空調設備整備事業	教育文化部総務課	○	★★★★	★★★★
	正確かつ必要な情報通信技術(ICT)獲得のための教育の充実事業	学校教育課	○	★★★★	★★★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

子育て世代にも選ばれるまちをつくるため、引き続き共働き世帯でも子育てしやすい環境整備を進めるとともに、市の魅力を高め、情報を発信する。また、令和2年度からスタートした第2期一宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略により、人口減少や少子高齢化対策をさらに推進していく。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

--

主担当部・課
総合政策部 政策課

関係課
子育て支援課、保育課、青少年育成課、公園緑地課、教育文化部総務課、学校教育課

第7次総合計画 令和2年度 施策評価シート

Management 1

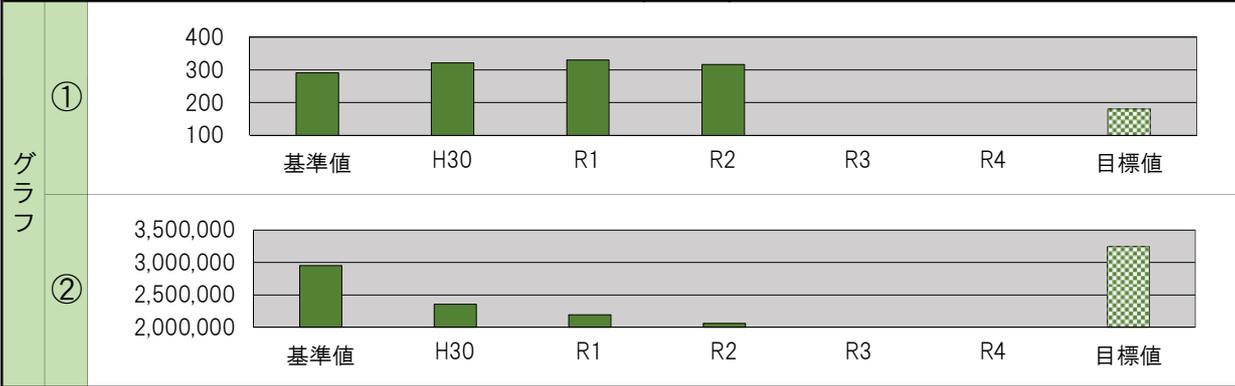
人を呼び込む ～シティプロモーション～

施策2

訪れてみたいまち、交流が盛んなまちをつくります

1. 成果指標による評価

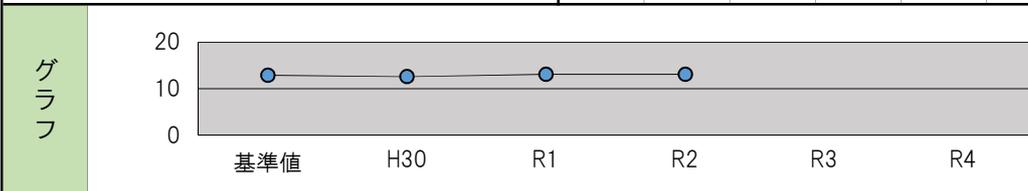
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値				目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3		
① 一宮市の認知度 (位)	↓	291	321	330	316		180	D
② 主要観光イベントの来客者数 (人)	↑	2,948,662	2,356,844	2,190,167	2,061,505		3,245,000	D



評価結果
D
悪化

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値				評価結果
		H30	R1	R2	R3	
一宮市は魅力があるまちだと思う人の割合	12.9	12.6	13.1	13.1		b 概ね良好



評価結果
b
概ね良好

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・全国的に自治体によるシティプロモーション活動は激化している。
- ・基準値の調査対象となる平成27年は、市長が交代し、一宮七夕まつりが60回の記念の年を迎え”東京ディズニーリゾート・スペシャルパレード”を実施するなど、例年に比べメディアの露出が多かった。
- ・レジャーの多様化により、既存の祭りなどの来客者数は減少傾向にある。
- ・天候やSNSでの影響により来客者数は大きく左右される。
- ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのイベントが中止となった。

5. 施策評価
Db

4. 指標の分析

成果指標	① 市制施行100周年に向けた周知が始まり、前年度実績値から14位改善したが、依然として基準値より高い(悪化した)水準にあり、目標値から乖離している。
成果指標	② 雨天・台風接近による荒天のため、前年度実績値から128,662人減少している。また、基準値の調査対象となる平成27年のイベントの注目度がとても高かったため、依然として基準値より低い水準にあり、目標値から乖離している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A					
↑					
成果指標					
↓					
D			Db 前回・今回		
	d	←	体感指標	→	a
成果指標と体感指標の乖離なし					

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
魅力ある集客イベントの開催	おりもの感謝祭一宮七夕まつり事業	商工観光課	○	★★	★★
	濃尾大花火事業	商工観光課	○	★★	★★
	一宮イルミネーション事業	商工観光課	○	★	★
	一宮モーニングプロジェクト事業	商工観光課	○	★★	★★
	びさいまつり事業	商工観光課	○	★★	★★
	萩原チンドン祭り事業	商工観光課	○	★★	★★
	138タワーパークイベント事業	公園緑地課	○	★★	★★
	いちのみやリバーサイドフェスティバル補助事業	公園緑地課	○	★★	★
観光情報等の発信	ウェブサイト等の運営事業	広報課	○	★★★★	★★
	いちのみやフィルムコミッション事業	商工観光課	○	★★	★★
市の新しい魅力発見のための観光資源の活用	フリーWi-Fi(無料公衆無線LAN)サービス拡大事業	情報推進課	○	★★	★
	観光案内所運営事業	商工観光課	○	★★	★★
	観光協会ウェブサイト事業	商工観光課	○	★★★★	★★★★
	イベント実施団体等への補助事業	商工観光課	○	★★★★	★★
	ミズベリング138事業	公園緑地課	○	★★	★★★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

各種事業の周知や市観光協会のSNSの活用により、認知度の向上を図る。
 令和3年度の市制施行100周年を好機とし、認知度の向上を図る。
 令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本指標の対象となるイベントの多くが開催中止となっている。その中で、実施するイベントについては相互の周知や、市ウェブサイトの仕掛けの活用により、来客者数の減少を抑える。

10. 市民から見た評価(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

評価結果	評価の理由や提案等	
	割合	理由や提案
○ 良くなっている	13.2%	・七夕まつりでは、コスプレイベントやディズニーパレードなど新しい取り組みをしていると思う。 ・観光資源やアピールするものが少ないので、認知度が低く来客者も少ないと思う。 ・名古屋のベッドタウン化が進み、名古屋に近い場所としか感じられない。
△ 変わらない	61.8%	
× 悪くなっている	25.0%	

主担当部・課
経済部 商工観光課

関係課
広報課、政策課、情報推進課、公園緑地課

Management 2 持続可能で未来につなげる

施策3 健全な財政運営に努めます

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別 評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 経常収支比率 (%)	→	85.6	89.2	90.2	90.4		85.6	C	
② 実質公債費比率(3か年平均) (%)	↘	3.7	3.3	3.3	3.4		3.3	A	
③ 市税徴収率 (%)	↗	96.0	96.2	96.9	97.3		97.0	A	

グラフ	①		評価結果 B 概ね良好
	②		
	③		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
市の提供するサービスで必要以上のサービスがあると思う人の割合	13.3	10.2	6.6	7.7			a 良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・2018年に始まった世界経済の減速の中で、日本の経済は内需主導の緩やかな成長が続いている。
- ・地方交付税総額が平成24年度以降減少しており、さらに、合併団体における普通交付税の合併算定替による増額分が段階的に縮減される(本市では平成28年度から5年間かけて縮減)。
- ・市税の徴収率は、平成21年度以降は全国的に上昇傾向にあり、滞納残高は着実に減少している。

5. 施策評価

Ba

4. 指標の分析

成果指標	①	法人市民税、個人市民税、事業所税など収入の伸びに比べて、人件費、扶助費、繰出金などの支出の伸びが上回ったため、前年度実績値から0.2ポイント上昇(悪化)しており、目標値以下に抑えることができなかった。
	②	法人市民税や個人市民税などの増加に対し、合併特例債などの発行による元利償還金の増加が上回ったため、前年度実績値から0.1ポイント上昇(悪化)したものの、目標値に対して良好に推移している。
	③	令和元年度から導入した納税推進センターによる現年滞納分の早期催告、職員による債権差押や公売等の滞納処分を強化したことにより、前年度実績値から0.4ポイント上昇しており、目標値を達成している。
市民の体感指標	基準値との比較において、市民ニーズに沿ったサービスが提供できたことにより、5.6ポイント低下(改善)している。また、前年度実績値との比較においては、標本誤差を考慮し、総合的には良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D									
		d ← 体感指標 → a							
成果指標と体感指標の乖離 なし									

第7次総合計画 令和2年度 施策評価シート

Management 2

持続可能で未来につなげる

施策 4

公共施設の適切な維持管理に努めます

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 公共施設の延べ床面積縮減率 (%)	→	0	0.1	0.8	0.6			2.3	C

グラフ	①		評価結果
			C 低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
公共施設を不自由なく利用できている人の割合	36.8	44.3	44.6	44.1			a 良好

グラフ		評価結果
		a 良好

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・平成24年に発生した中央自動車道トンネルの天井板崩落事故がきっかけとなり、高度経済成長期に整備された公共施設が一斉に老朽化を迎えることに対する危機感が高まっている。
- ・平成26年4月に総務省より、公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための計画策定の要請があり、本市では28年11月に「一宮市公共施設等総合管理計画」を策定した。
- ・今後人口減少が予測され、市税など収入の増加は見込めないことから、施設の維持・運営・管理経費の縮減と適正配置および長寿命化への対応が必要である。

4. 指標の分析

成果指標	① 「一宮市公共施設等総合管理計画」策定前より計画されていた公民館の完成と待機児童解消を目指し児童クラブの整備を進めているため、前年度実績値から0.2ポイント低下している。
市民の体感指標	基準値との比較において、公民館、児童クラブの整備等、市民ニーズに沿った施設整備を進めたことにより、7.3ポイント上昇したと考えられる。また、前年度実績値との比較において、結果的には良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D					
				Ba 前回	
				Ca 今回	
	d	←	体感指標	→	a
成果指標と体感指標の乖離 なし					

5. 施策評価

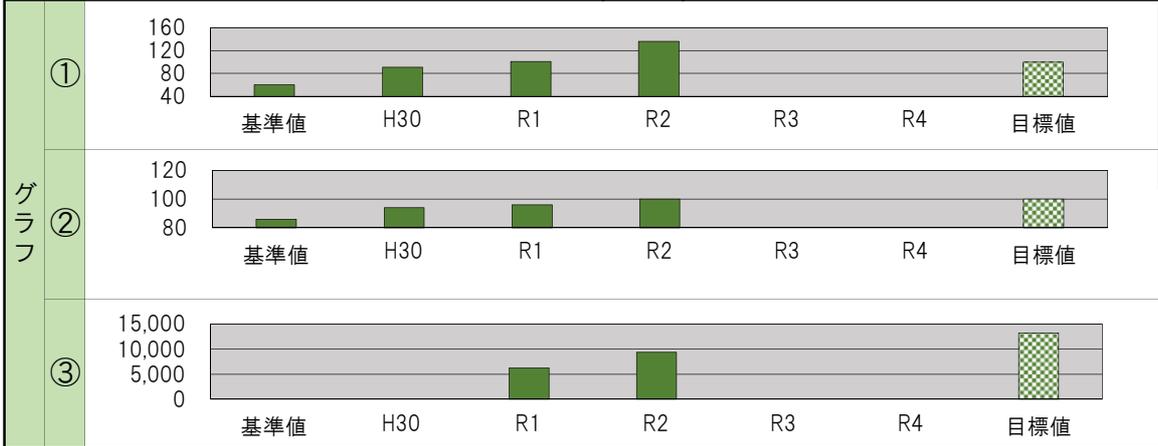
Ca

Management2 持続可能で未来につなげる

施策5 情報通信技術（ICT）を積極的に利活用します

1. 成果指標による評価

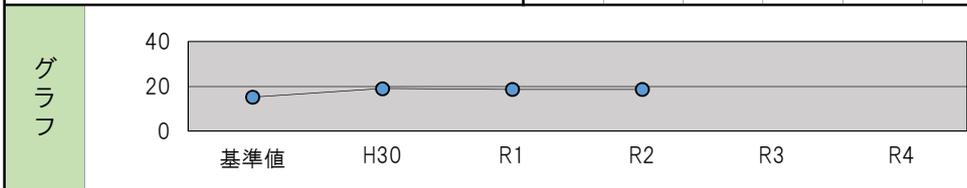
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① オープンデータ公開件数（件）	→	60	91	101	136			100	A
② いちのみやフリーWi-Fi（無料公衆無線LAN）アクセスポイント数（か所）	→	86	94	96	100			100	A
③ インターネットを利用した税のクレジットカード納付件数（件）	→	-	-	6,300	9400			13,200	A



評価結果
A
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
一宮市のインターネット関連のサービスが充実していると思う人の割合	15.3	19.1	18.8	18.8			b 概ね良好



評価結果
b
概ね良好

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・国による地方公共団体オープンデータ推進ガイドラインの改定があり、推奨データセットが公表されたため、オープンデータの利用促進が見込まれる。
- ・国においても、外国人観光客等が観光・災害時に利用しやすいWi-Fi環境を実現するため、観光・防災拠点への環境整備を推進している。
- ・多様化するライフスタイルに対応した収納方法を確保することで、納税者の利便性を向上させる必要がある。

5. 施策評価
Ab

4. 指標の分析

成果指標	①	オープンデータの公開を促進した結果、令和元年度に目標値を達成し、今年度はさらに35件増加している。
	②	計画的に整備を進めた結果、前年度実績値から4か所増加し、目標値を達成した。
	③	納付しやすい収納方法を確保することで納税者の利便性が向上し、クレジット納付件数は前年度実績値から3,100件増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標		前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス	
A	Ab 前回・今回
↑ 成果指標 ↓	
D	
	d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離 なし	

第7次総合計画 令和2年度 施策評価シート

Management 2

持続可能で未来につなげる

施策6

適切な情報発信を行います

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 市公式ウェブサイトのアクセス件数 (件)	→	9,864,000	9,123,780	9,666,526	12,064,593			11,840,000	A
② オープンデータ公開件数 (件)	→	60	91	101	136			100	A

グラフ	①							評価結果
	基準値	H30	R1	R2	R3	R4	目標値	
	9,864,000	9,123,780	9,666,526	12,064,593			11,840,000	A 良好
	②							
	60	91	101	136			100	

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
市からの情報を適切に入手できていると思う人の割合	44.1	50.3	51.9	50.1			a 良好

グラフ	市民の体感指標 (%)					
	基準値	H30	R1	R2	R3	R4
	44.1	50.3	51.9	50.1		

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・インターネットの日常化により、行政情報を得る手段は、ウェブサイトによる検索が一般的になっている。
- ・若い世代を中心として、SNSを利用した積極的な情報発信が行われている。
- ・国による地方公共団体オープンデータ推進ガイドラインの改定があり、推奨データセットが公表されたため、オープンデータの利用促進が見込まれる。

4. 指標の分析

成果指標	① 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市民に必要な関連情報を、ウェブサイト上で絶えず公開した結果、前年度実績値から約240万件増加し、目標値を達成した。
	② オープンデータの公開を促進した結果、令和元年度に目標値を達成し、今年度はさらに35件増加している。
市民の体感指標	基準値との比較において、CMSの導入や、広報紙に市ウェブサイトの「ページID」を掲載するなど、情報連携を強化したため、6ポイント上昇したと考えられる。また、前年度実績値との比較においては、標本誤差を考慮し、総合的には良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標			Aa 今回
			Ca 前回
D ↓			
	d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし			

5. 施策評価

Aa

第7次総合計画 令和2年度 施策評価シート

Management 2

持続可能で未来につなげる

施策7

市民との協働を進めます

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 無作為選出制度における名簿登録者の割合 (%)	→	9.2	10.2	10.2	6.5			8.0	D
② 市民が選ぶ市民活動支援制度の選択届出率 (%)	→	11.5	11.7	9.4	10.1			15.0	D

グラフ	評価結果
	D 悪化

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
市民と市が協力してまちづくりに取り組んでいると思う人の割合	19.2	20.1	20.4	20.3			b 概ね良好

グラフ

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・ 少子高齢化の進展や防犯・防災など地域課題が増大・多様化し、全てを行政サービスで対応することは困難である。
- ・ 定年退職者等の「能力も時間もある市民」が増えており、彼らの地域での活躍が期待されている。
- ・ 災害支援等でボランティアやNPOの活動がますます世間に認知され、社会のために役立ちたいと考える若者や市民が増えている。

4. 指標の分析

成果指標	<p>① 周知不足のため、前年度実績値から3.7ポイント低下しており、基準値を下回る水準まで悪化している。</p> <p>② 選択届出の案内冊子の見直しやネット投票期間の前倒しを実施したため、前年度実績値から0.7ポイント上昇しているものの、引き続き基準値を下回り目標値から乖離している。</p>
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D			
		Cb 前回	
		Db 今回	
	d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし			

5. 施策評価

Db

参考 アンケート調査（市民の体感指標）の標本誤差について

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいですが、実際はその手間や費用を考慮して適切な数を抽出し調査を行います。そのため、アンケートの回答結果に誤差が生じます。それを標本誤差といい、次の計算式によって算出できます。

なお、k は信頼率による定数で、一般的に信頼率 95%とすることが多く、その場合 k=1.96 となります。信頼率 95%とは、100 回同じ調査を行えば、95 回はその標本誤差の範囲内に収まるという意味です。

$$\text{(標本誤差)} = k \sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

M：母集団

n：有効回答数

k：信頼率による定数(※)

p：回答比率

※一般的に信頼率95%とすることが多く、その場合、k=1.96となる。

例えば、「あなたは携帯端末を持っていますか。」というアンケート調査を、380,000 人の市民の方から無作為に 3,000 人を選んで実施して、n:有効回答数が 1,600 人、「はい」と回答した割合が 82.0%であった場合、M:380,000、p:0.82、k:1.96 を当てはめて計算すると、標本誤差は約 1.88%となります。約±1.88%の誤差を生じることとなりますので、その回答は（95%の確率で）80.12%～83.88%（82±1.88%）の範囲内となります。

(注) 同じ設問を経年的に調査するときなどは、この標本誤差を踏まえて分析する必要があります。本市の行政評価においては、市民の体感指標ごとに標本誤差を考慮した評価および分析を実施しています。